

教育成果の測定のあり方をどのように考えるか  
『大学生基礎力調査』のデータ実例で見る教育改善の方法

ベネッセ教育総合研究所

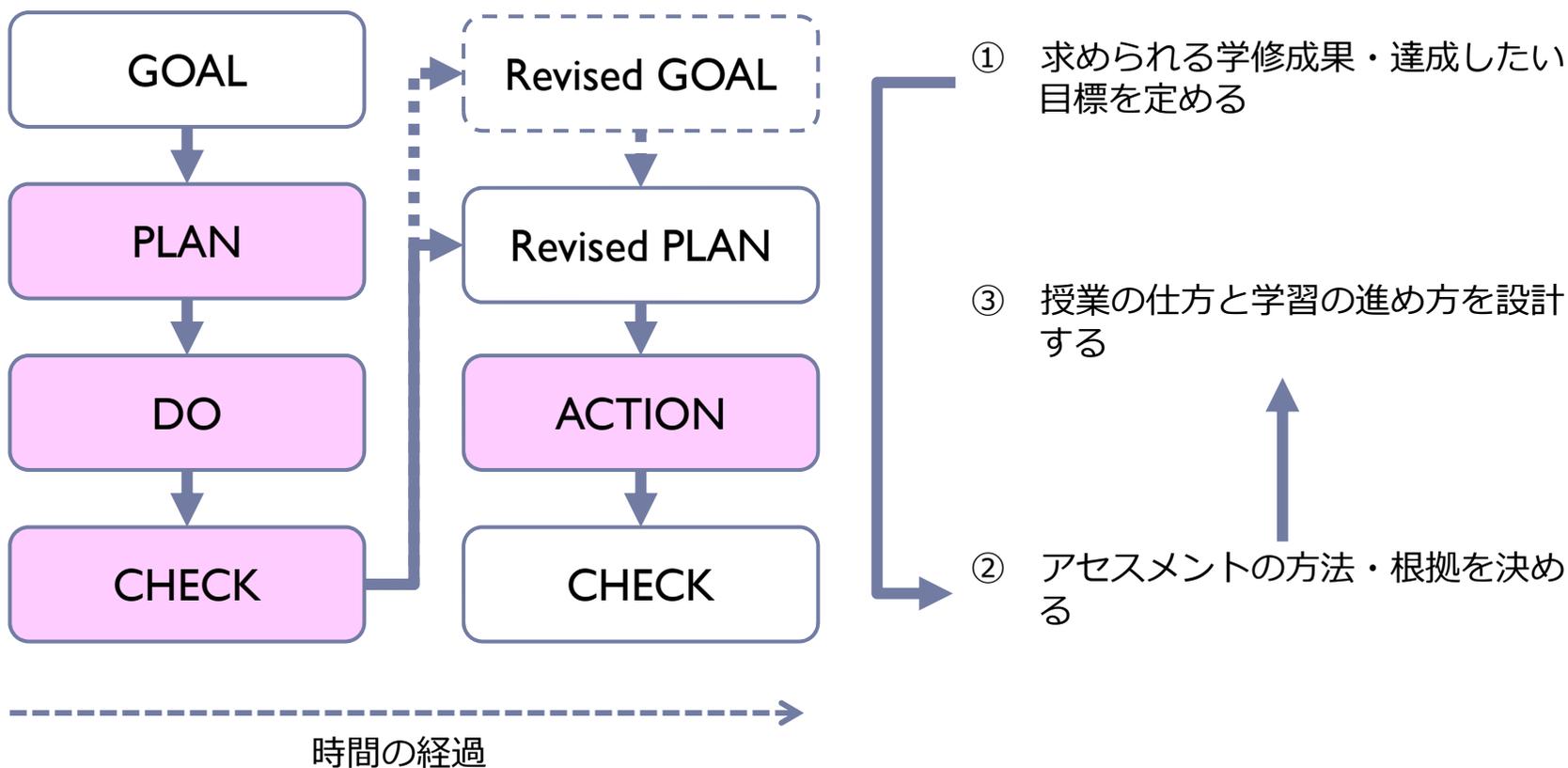
高等教育研究室  
主席研究員・チーフコンサルタント 山下 仁司

[hyamashita@mail.benesse.co.jp](mailto:hyamashita@mail.benesse.co.jp)

# はじめに・・・教育（学修）成果の測定で重視すべき事

PDCAサイクルの実際

逆向き設計の順序



まずは達成したい目標（Goal）を設定すること。その次に、それは「何で測定・評価できるのか」を決めておくこと。その次に、具体的な計画をする。

# 「教育成果測定のアセスメント」の構成概念をどのように考えるか

## 教育成果における構成概念（ゴール）

### 学生の成長

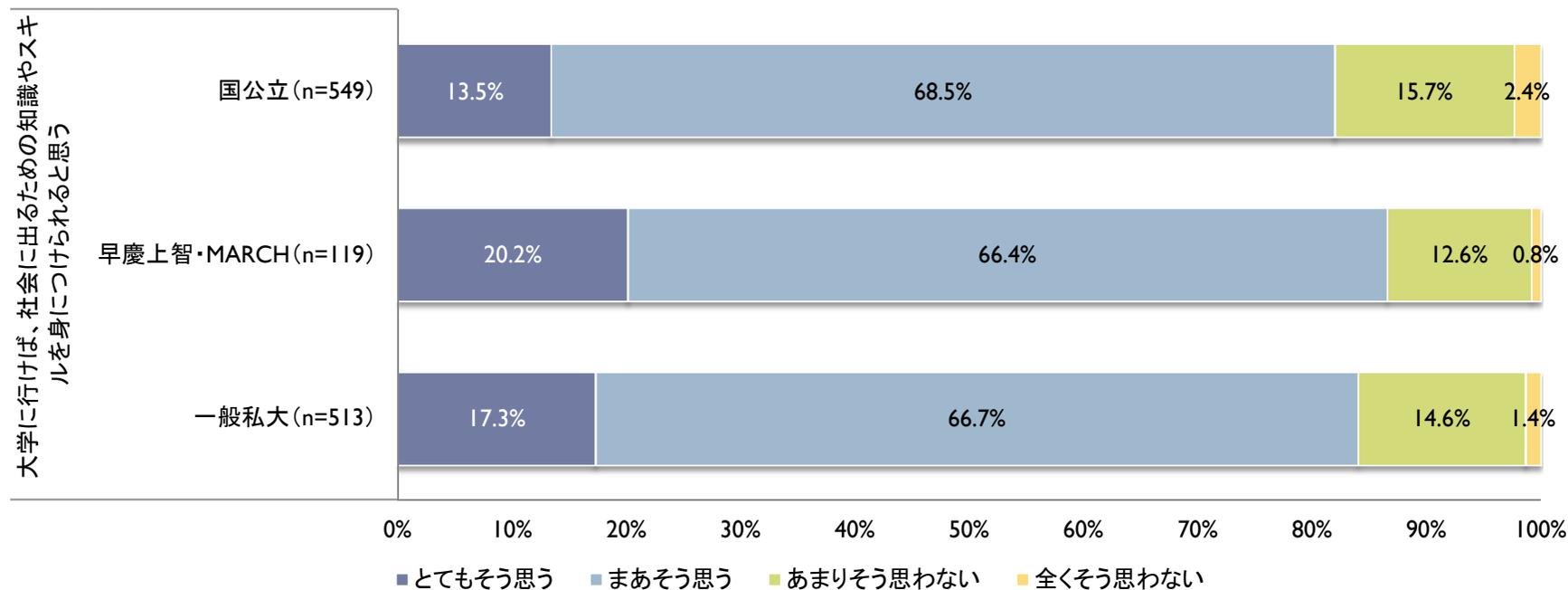
社会とのかかわりへの自信・責任感  
アイデンティティーの確立：自分は何者であるか、自分は自  
分の何を活かして社会に参画し貢献するか

専門教育の学修成果

汎用的能力の獲得  
認知的能力：批判的・論  
理的思考力  
課題解決能力  
非認知的能力：対人関係  
能力、協働性、チーム  
ワーク・リーダーシップ

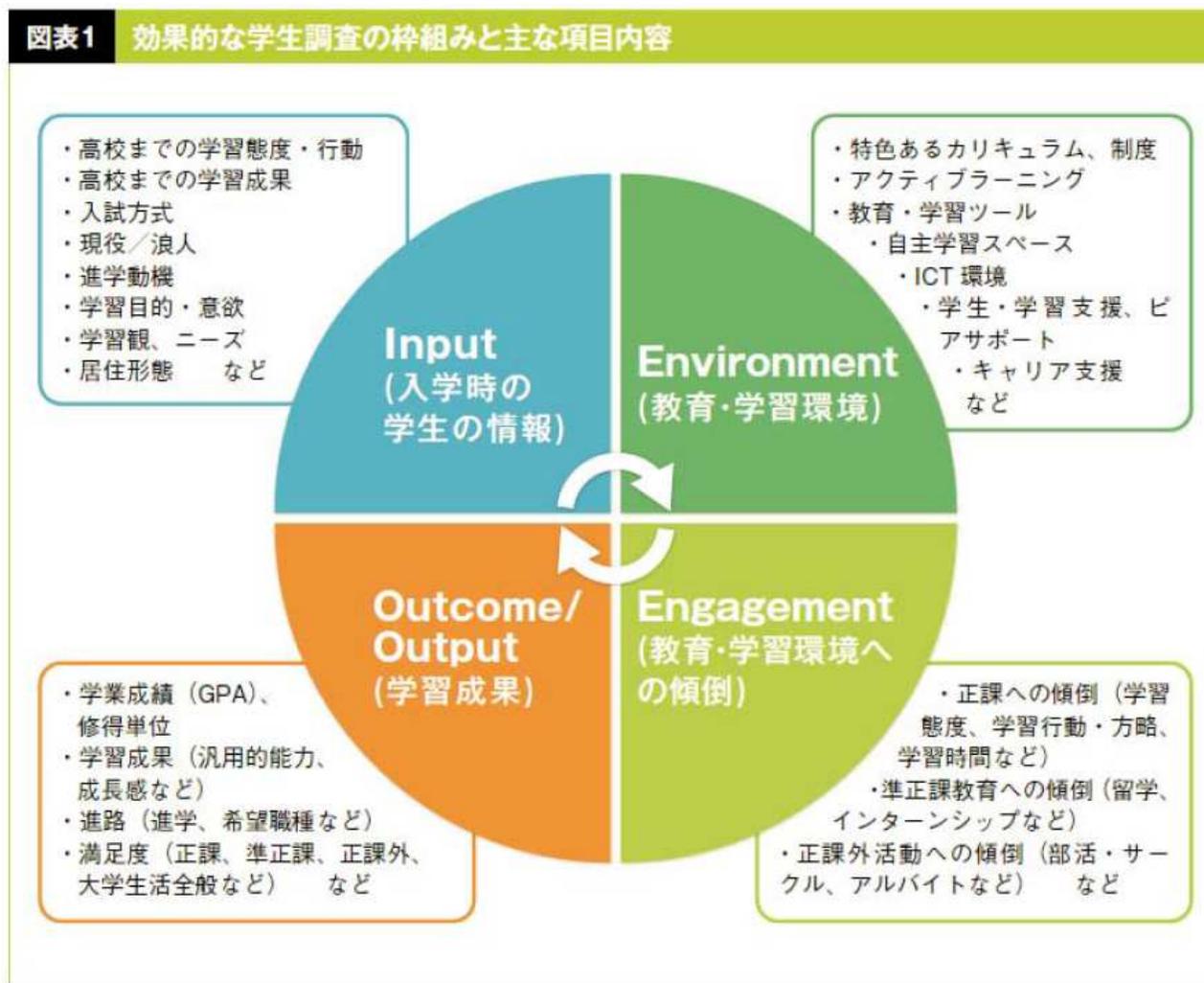
# 大学に期待する高校生～大学に行けば、社会に出る力がつくと思っている

Q: 大学に行けば、社会に出るための知識やスキルを身につけられると思う



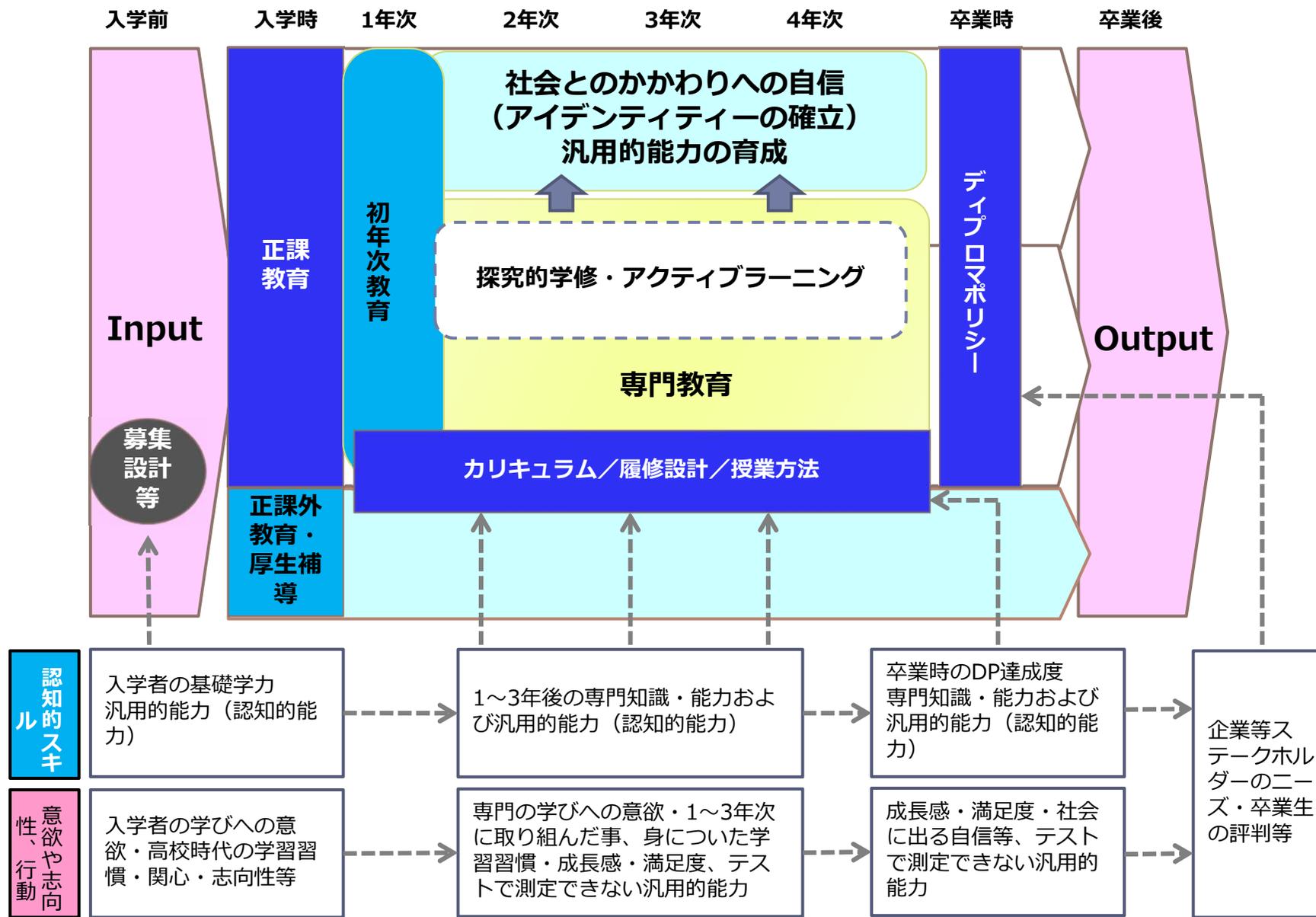
80%の高校生がそう思って大学に進学

# 時系列的に学生の変化を見る視点 I・E・E・O



愛媛大学 山田剛史准教授による、AstinのIEOをアレンジしたIEEO理論

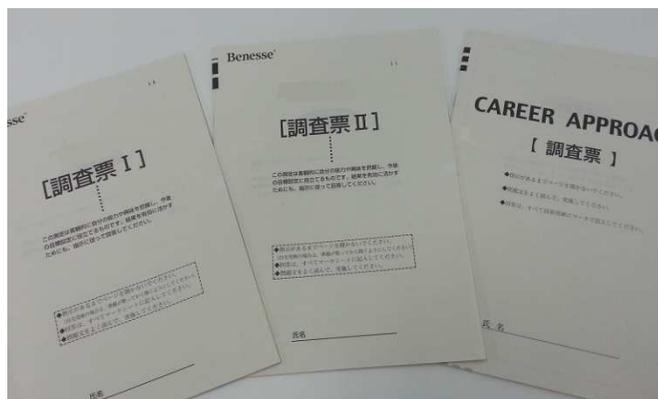
# 教育改善のための必要なエビデンス/情報のあり方とタイミング



# 大学生基礎力調査とは

大学入学時～2年、3年（3年は9月中心）～卒業時に実施する、学生の学力、キャリアレディネスや進路適性、意識調査などを組み合わせたアセスメント。

アセスメント冊子



教職員向け結果CD-ROM内容 ※お届けするCD-ROMの一部抜粋です。



▲ 過年度で、学部・学科、入試区分別の分析が可能です

▲ 個人結果を学部・学科別に一覧で確認できます

▲ PDF版の個人結果は学内システムに取り込むことができます

大学教員向け結果レポート

学生向け「結果報告書」 ※学生用結果報告書の名称は「自己発見レポートⅠ」となります。



学生向けの結果レポートと、レポートに基づくワーク（学修目標の設定など）

概要	
実施時間	約90分（マークシート式）
結果返却	約2週間
学力オプション	批判的思考力テスト（論述型 汎用的能力の測定）
追加オプション	学力調査（英語・数学・国語・物理・化学・生物） GTEC（英語オンラインテスト）

## はじめに・・・お詫びと訂正



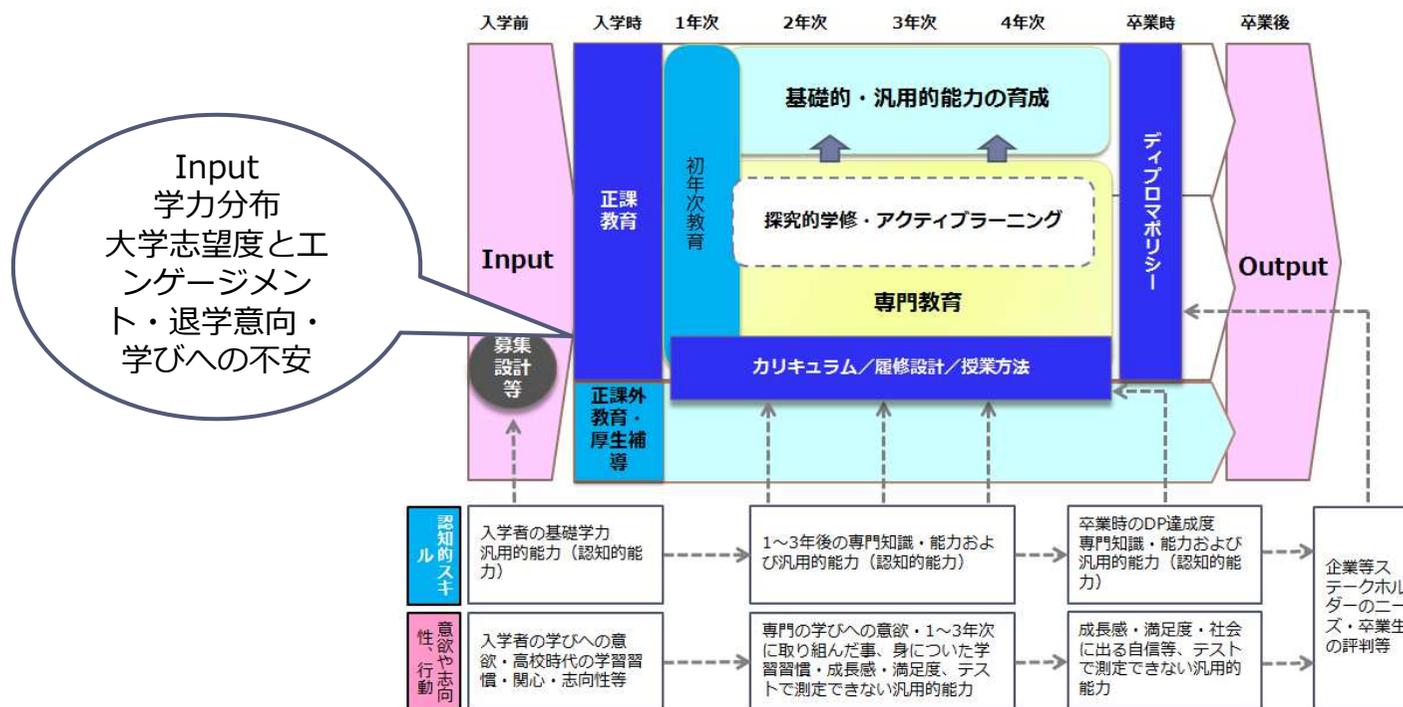
予稿中の私の原稿、2ページ目の**表1「大学生基礎力調査シリーズの構成と今回の分析対象受験者数」**の先頭行に誤りがありませんでした。

先頭行に、アセスメント冊子名とありますが、これは誤りで、表1は、すべて各年度の「大学生基礎力調査I」のうち、今回の分析対象となった学生のデータ数です。

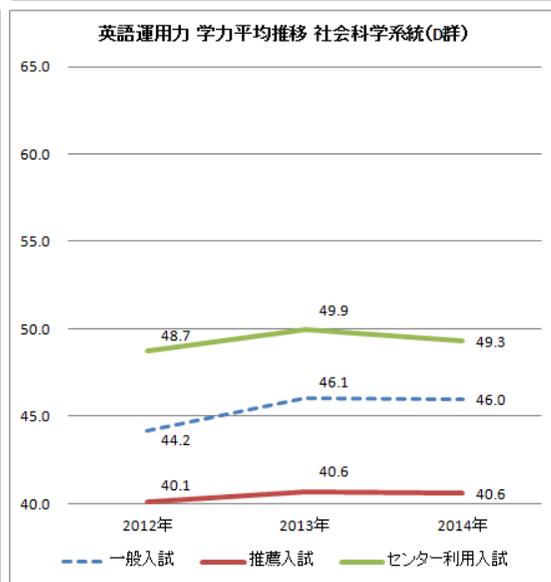
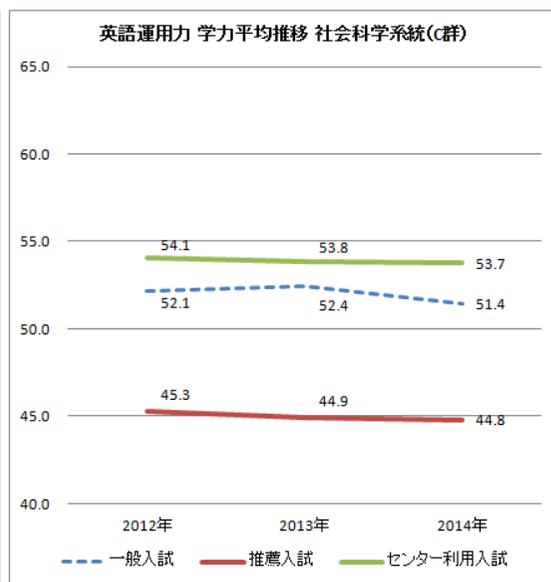
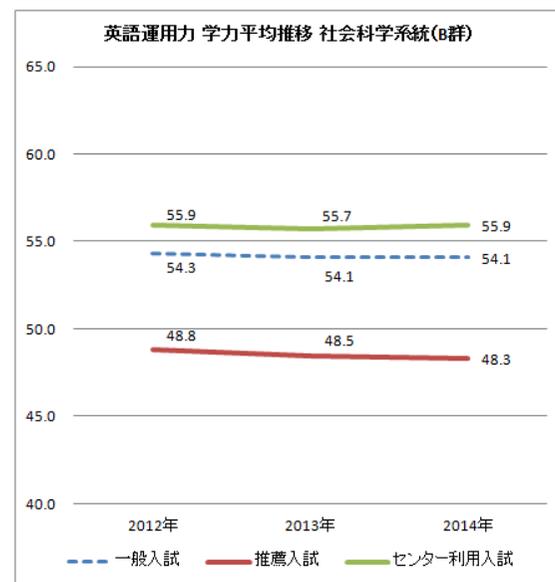
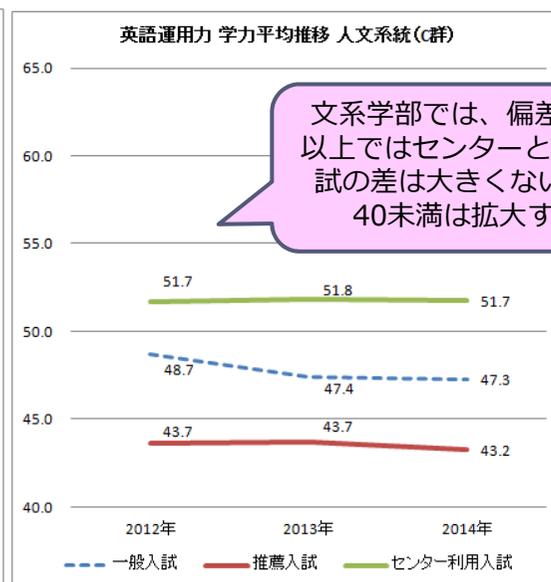
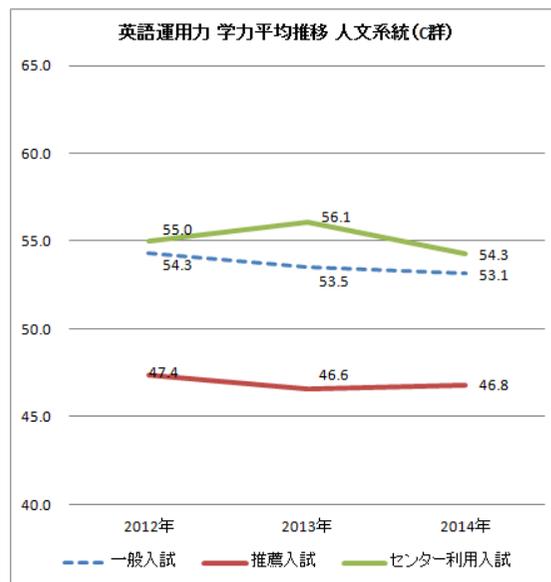
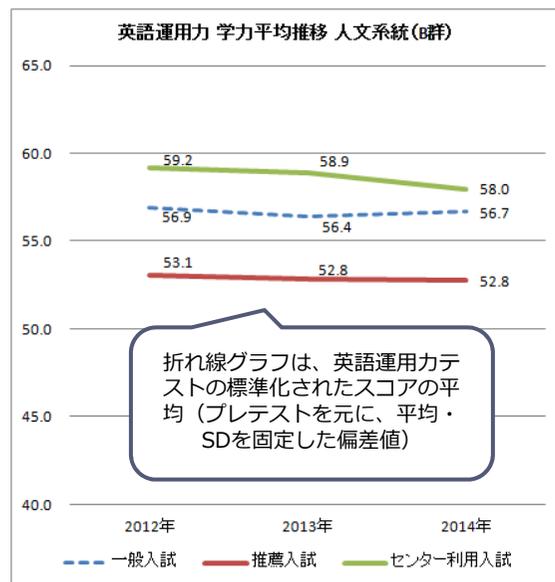
お詫びして訂正いたします。

大学合格偏差値別受験者数	2012受験者数	2013受験者数	2014受験者数
A 60以上	9,482	9,960	7,963
B 50～60	24,761	24,876	25,368
C 40～50	28,565	29,547	30,780
D 40未満	14,399	14,666	15,297
合計	77,207	79,049	79,408

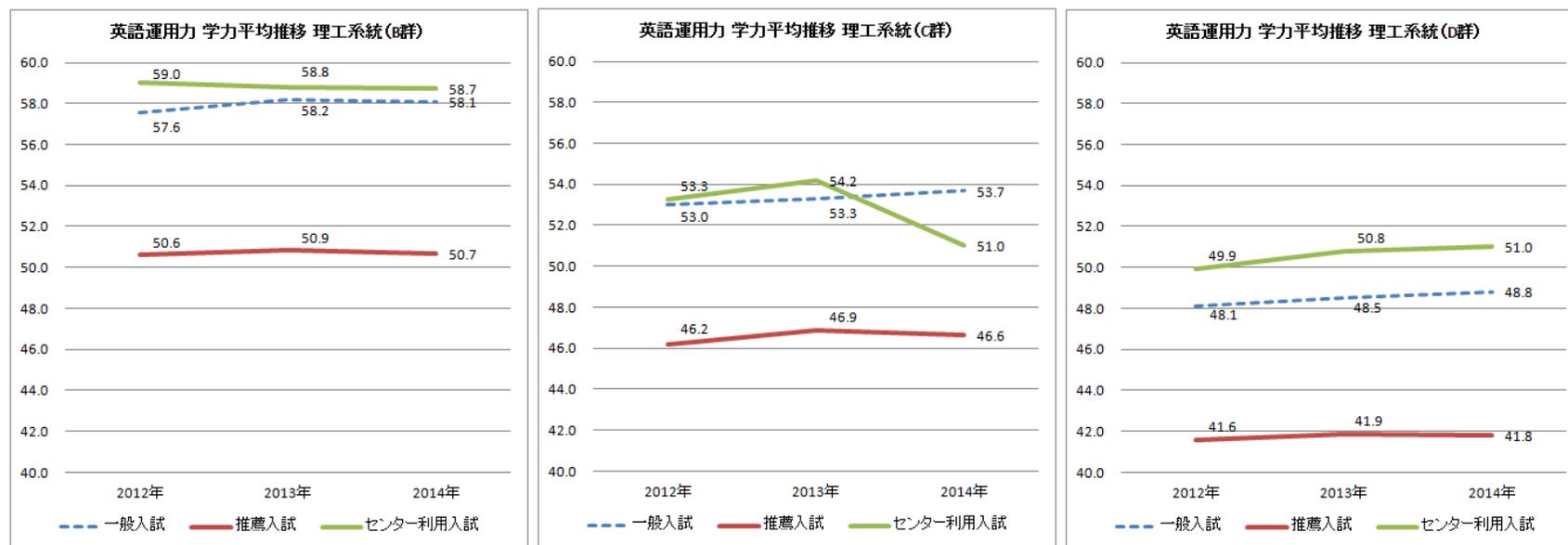
# 1. Input 入学生のデータ どういう情報を取り、どう読むか



# 入試方式別学力分布 学部系統・合格偏差値帯別3カ年推移 (文系)



# 入試方式別学力分布 学部系統・合格偏差値帯別3カ年推移 (理工)



理工系でも同様の傾向。  
C群（偏差値40～50）のセンター利用入試者に何が起きたか？

各学部系統で、入学時の絶対学力を測定しておくことの重要性

- ① 同じ問題を使用する事で、年次の推移が分かる→募集・広報等の成功度合いを判断
- ② 入試方式別集計で、差のありようを確認。学部によるが、中堅上位は比較的センター利用入試と差が少なく、推薦入学者は低い。
- ③ 差だけでなく、学力水準と大学での学びのレディネスをクロスしてデータを集計すれば、リメディアルの必要学生の抽出などに利用可能



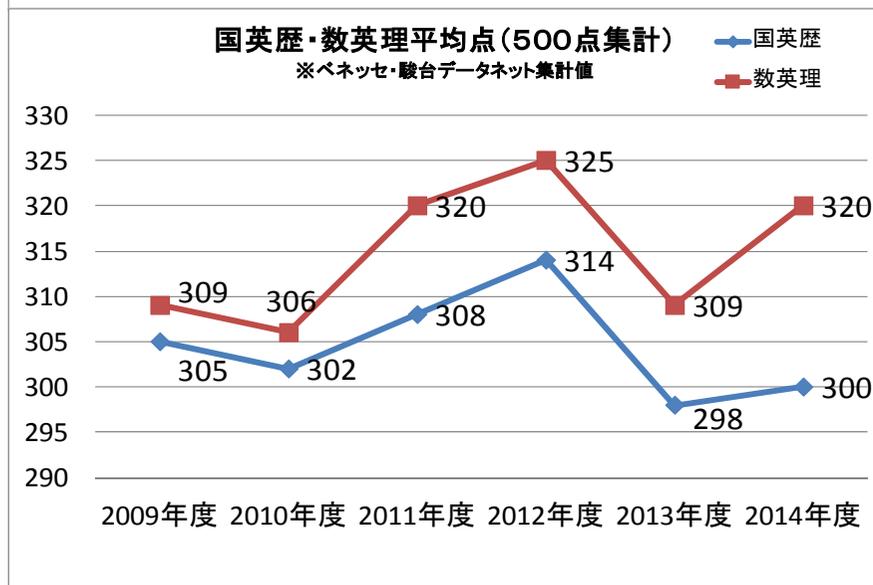
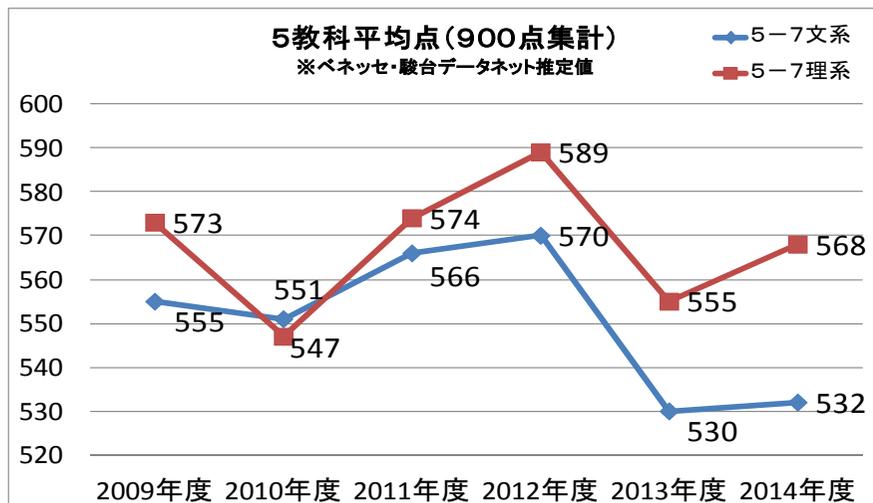
合格偏差値帯＝各大学・学部の合格偏差値（60%合格可能性ライン）の平均です。

B群 50～60  
C群 40～50  
D群 40未満

(C) Benesse Corporation 2014

# 今年度入試＝（理系）旧課程入試最後の年で、慎重になった受験生

## ◆センター試験 平均点推移（ベネッセ推定値）



● 2013年度は、センター試験理数系の大幅難化（平均点の低下）で理系（特に医歯薬系等）私大の志願者数増。ただし、結果的には例年の難易度に収まる。

● 2014年度は、旧課程最後の入試として、「浪人すると、新課程生との競争になる」ことを嫌って安全志向に。中堅国立を諦め、公立・私大に流れる層が増加。

・国公立2次試験後期の欠席率55%（1%ポイント増）

・私立大の一般方式を2月24日を境に前期と後期に分けてみると、前期の志願指数101に対し後期は90で、1万4千人以上減少（早く合格通知をもらい、進学大学を決定）

# 「大学」第1志望の割合 学部系統・合格偏差値帯別3カ年推移



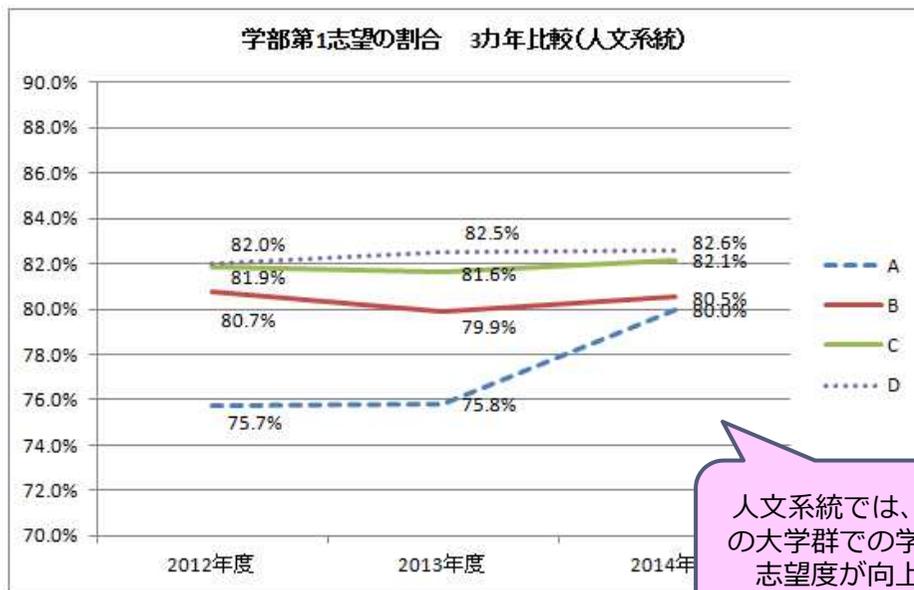
理工系統では、慎重になり大学を妥協する者が増加か

13 出典：ベネッセコーポレーション『大学生基礎力調査 I』2012～14年度

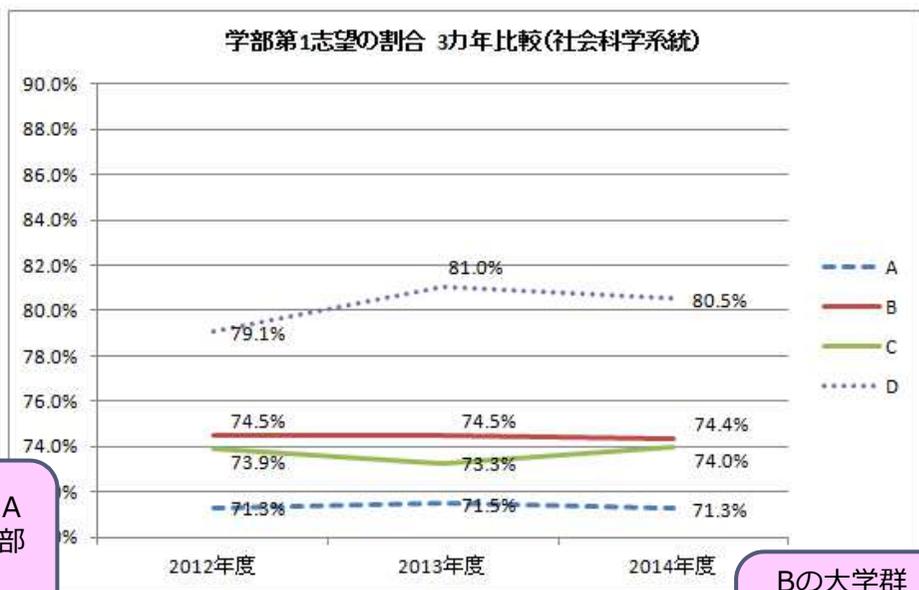
---A 合格偏差値60～  
—B 50～60  
—C 40～50  
.....D 40未満

(C) Benesse Corporation 2014

# 「学部」第1志望の割合 3カ年推移



人文系統では、Aの大学群での学部志望度が向上



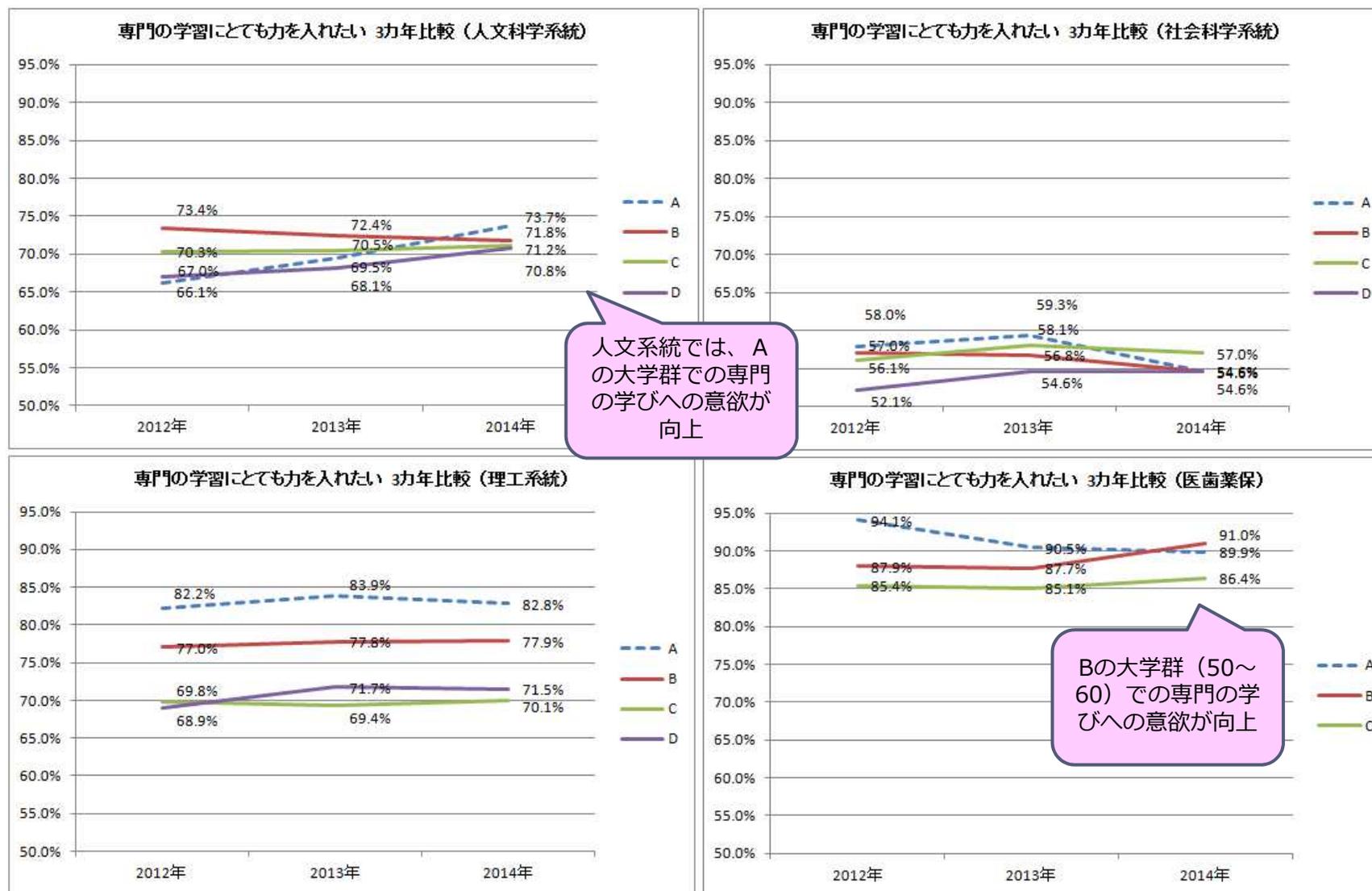
Bの大学群(50~60)での学部志望度が回復



理工系統では、慎重になり学部を妥協する者が増加か



# 専門の学習に「とても力を入りたい」割合 3カ年推移

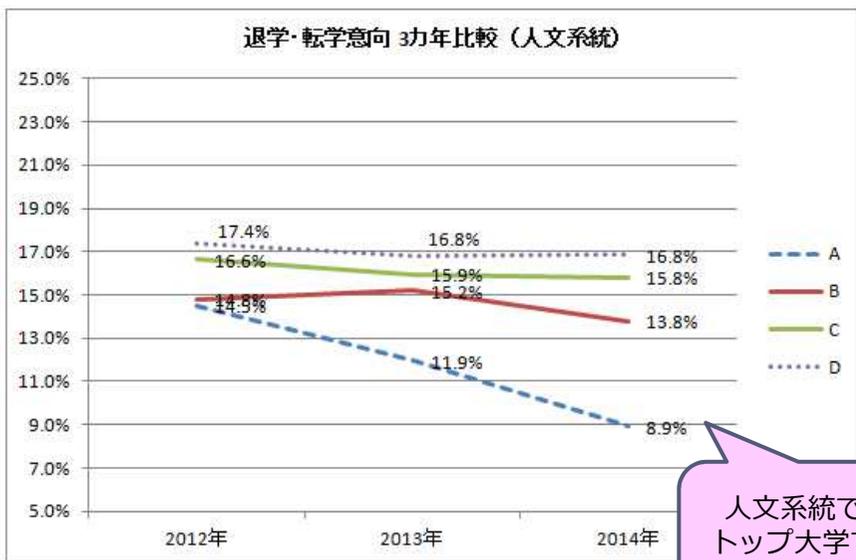


15 出典：ベネッセコーポレーション『大学生基礎力調査 I』2012～14年度

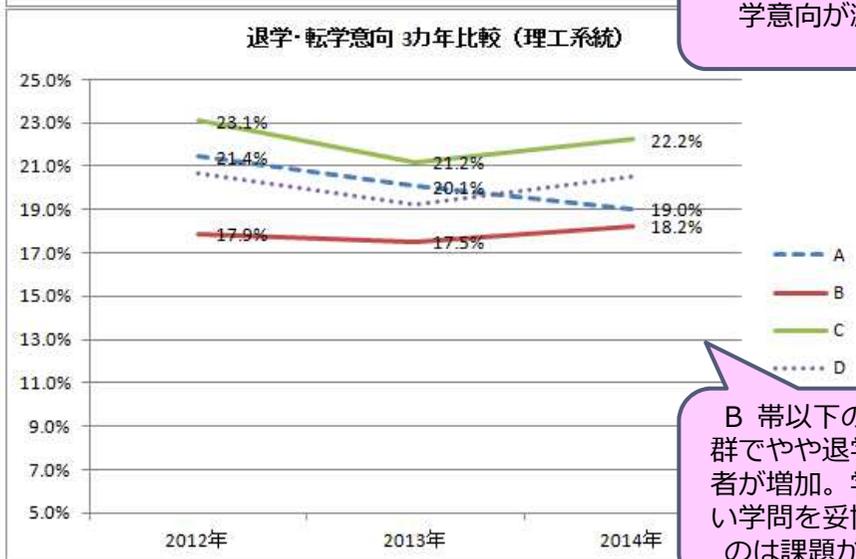
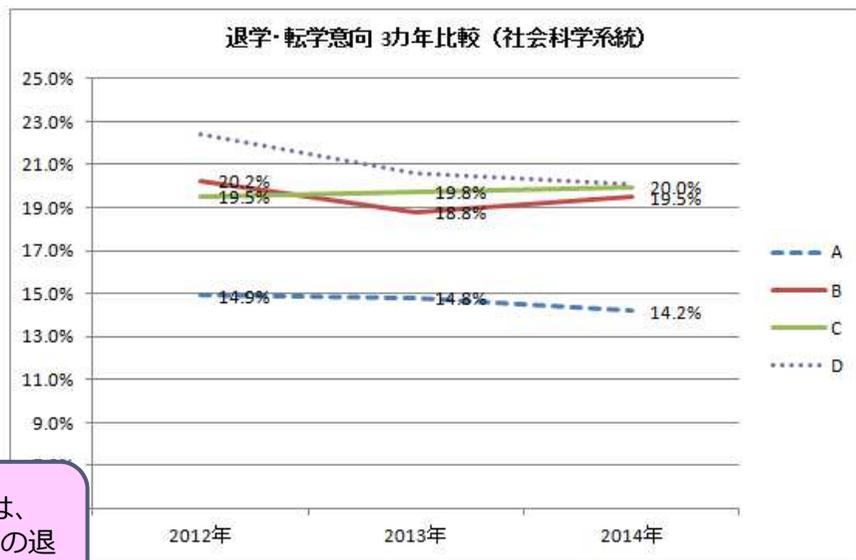
--- A 合格偏差値60～  
 --- B 50～60  
 --- C 40～50  
 ..... D 40未満

(C) Benesse Corporation 2014

# 転学・退学意向（非常に+ややあてはまる の合計） 3カ年推移



人文系統では、  
トップ大学での退  
学意向が減少

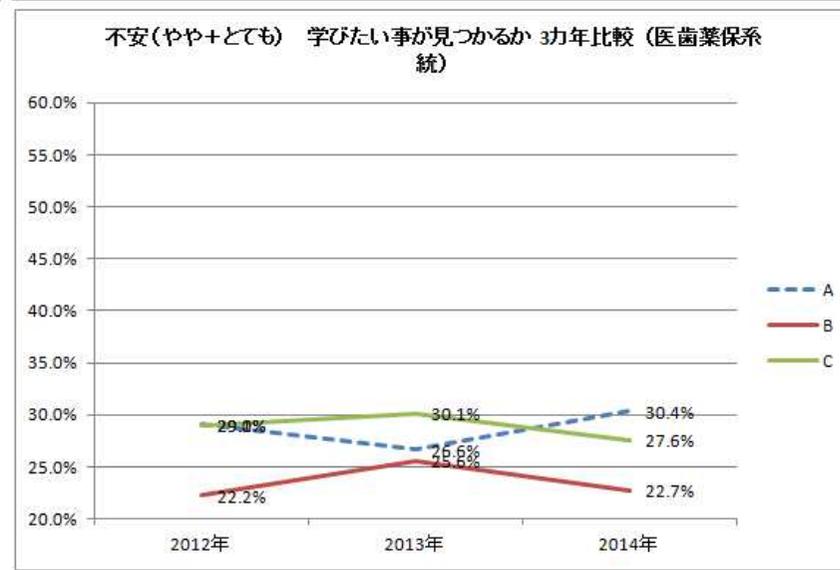
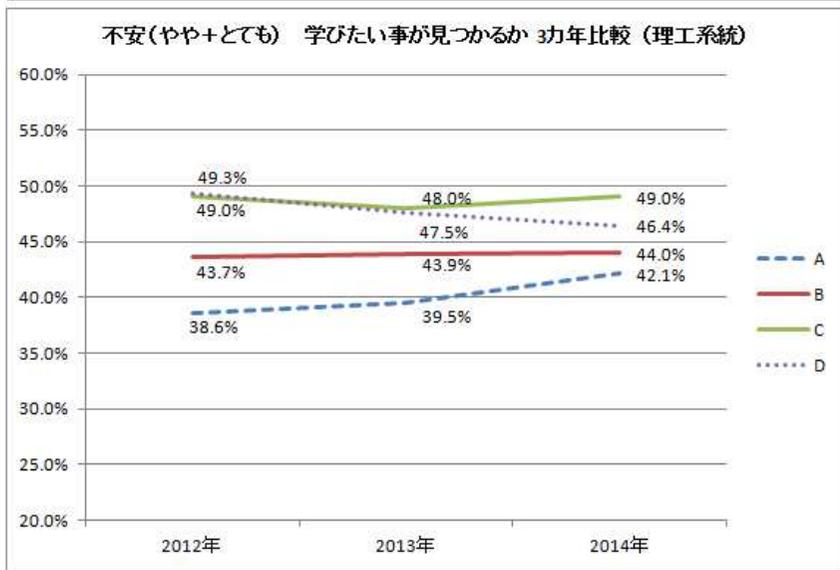
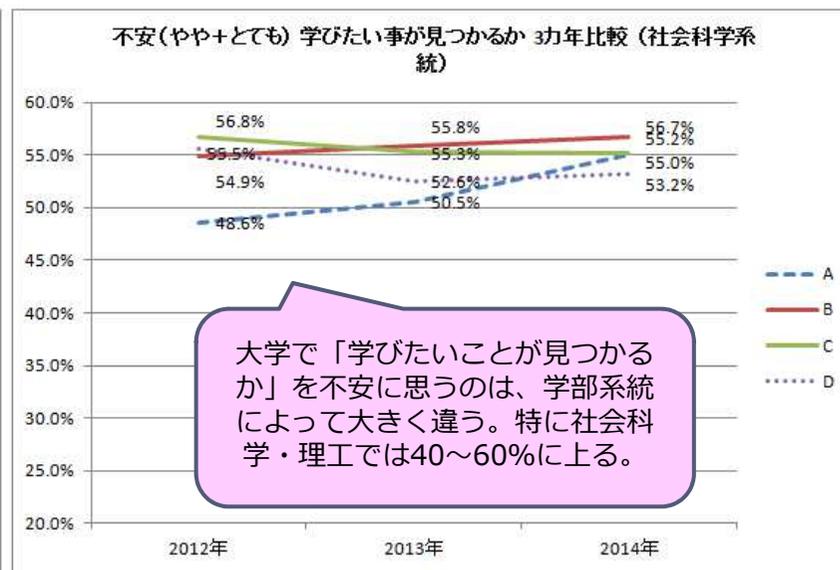
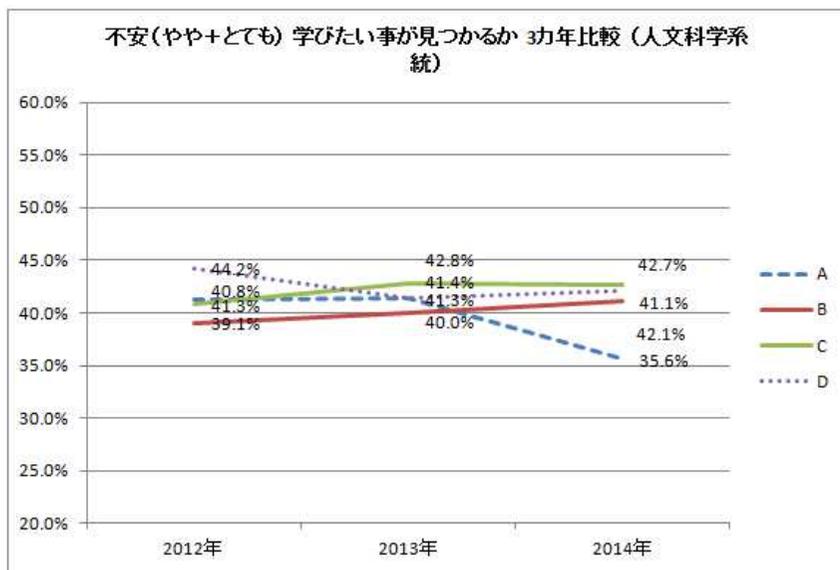


B 帯以下の大学  
群でやや退学意向  
者が増加。学びた  
い学問を妥協する  
のは課題が多い



Bの大学群  
(50~60)  
での退学意向  
が減少

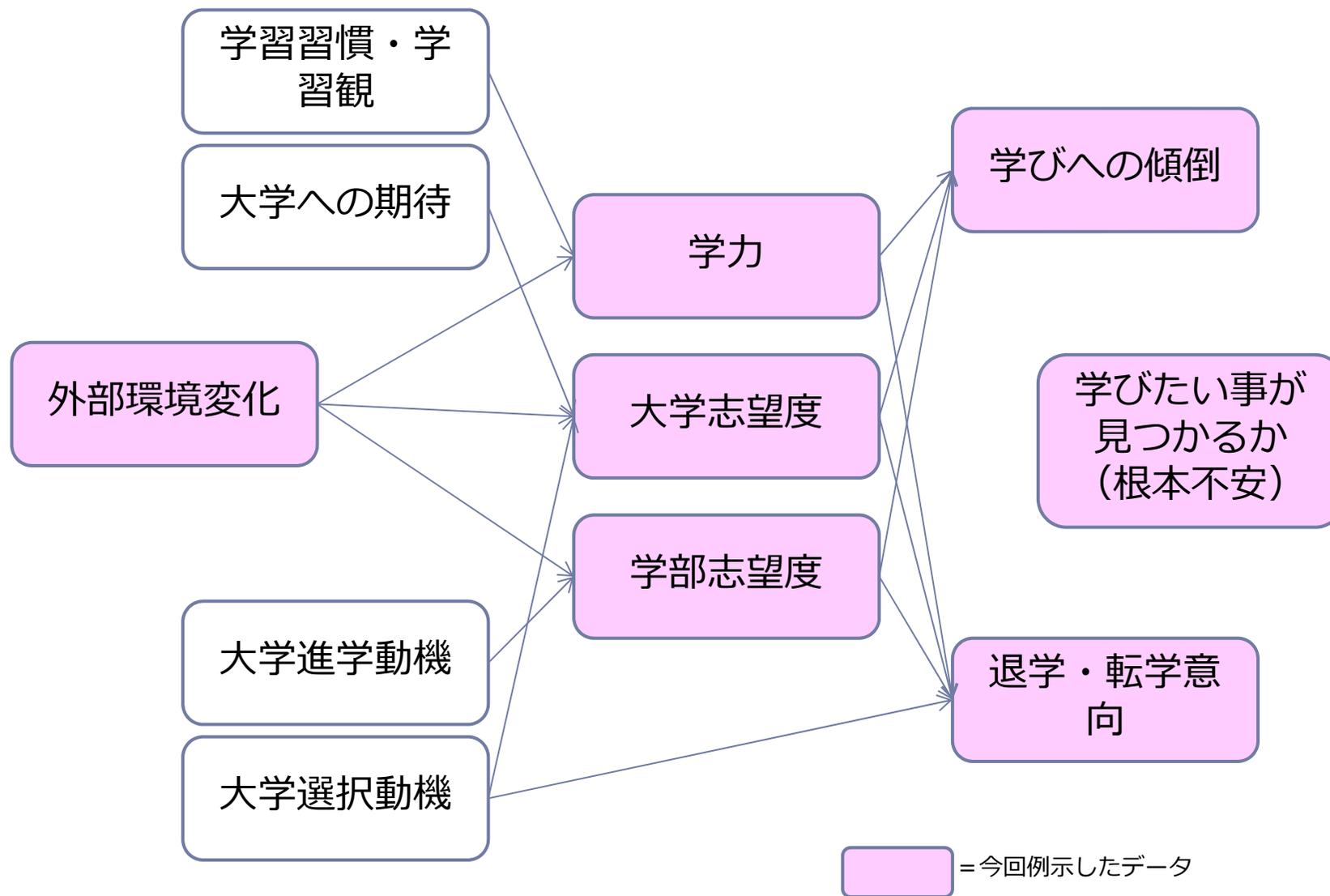
# 入学後の不安「学びたいことが見つかるか」



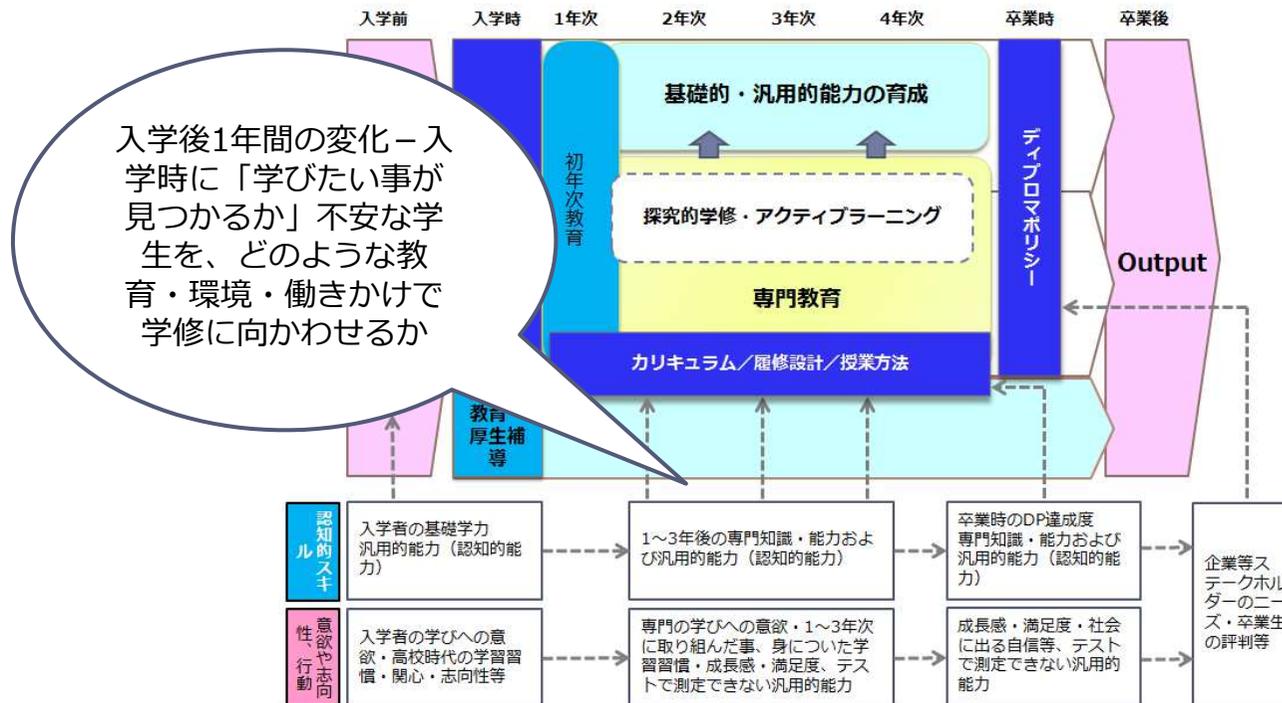
17 出典：ベネッセコーポレーション『大学生基礎力調査 I』2012~14年度

--- A 合格偏差値60~      — C 40~50      (C) Benesse Corporation 2014  
 — B 50~60                      ····· D 40未満

# まとめ： Input で見べき事

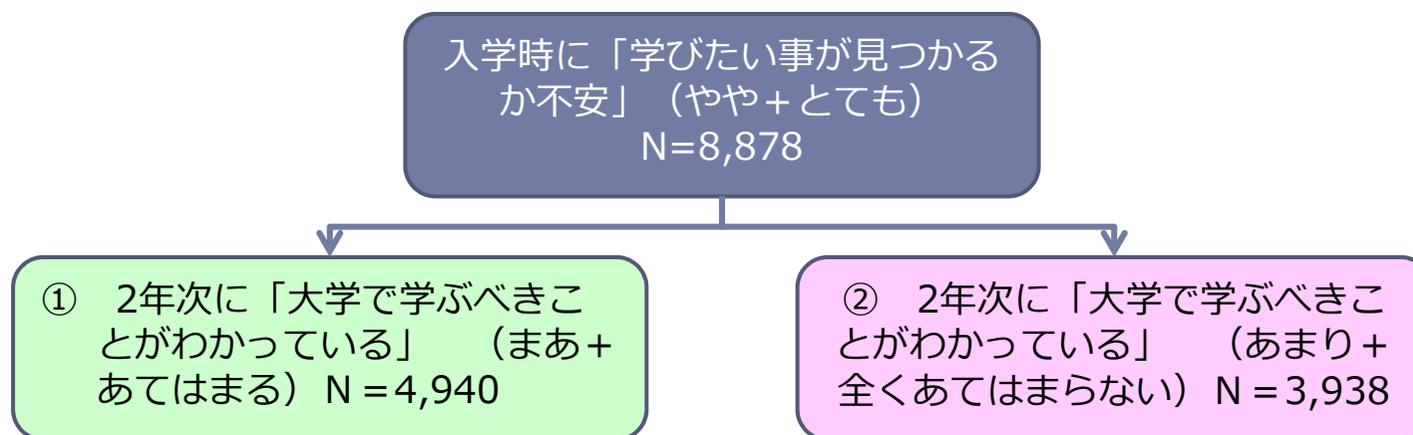


## 2. 学びへの傾倒（エンゲージメント）をどのように養成すべきか



入学時に「学びたいことが見つかるか不安」だった学生の6割が、2年次に「大学で学ぶべきことがわかっている」と回答した。そうでない者との差は何か？

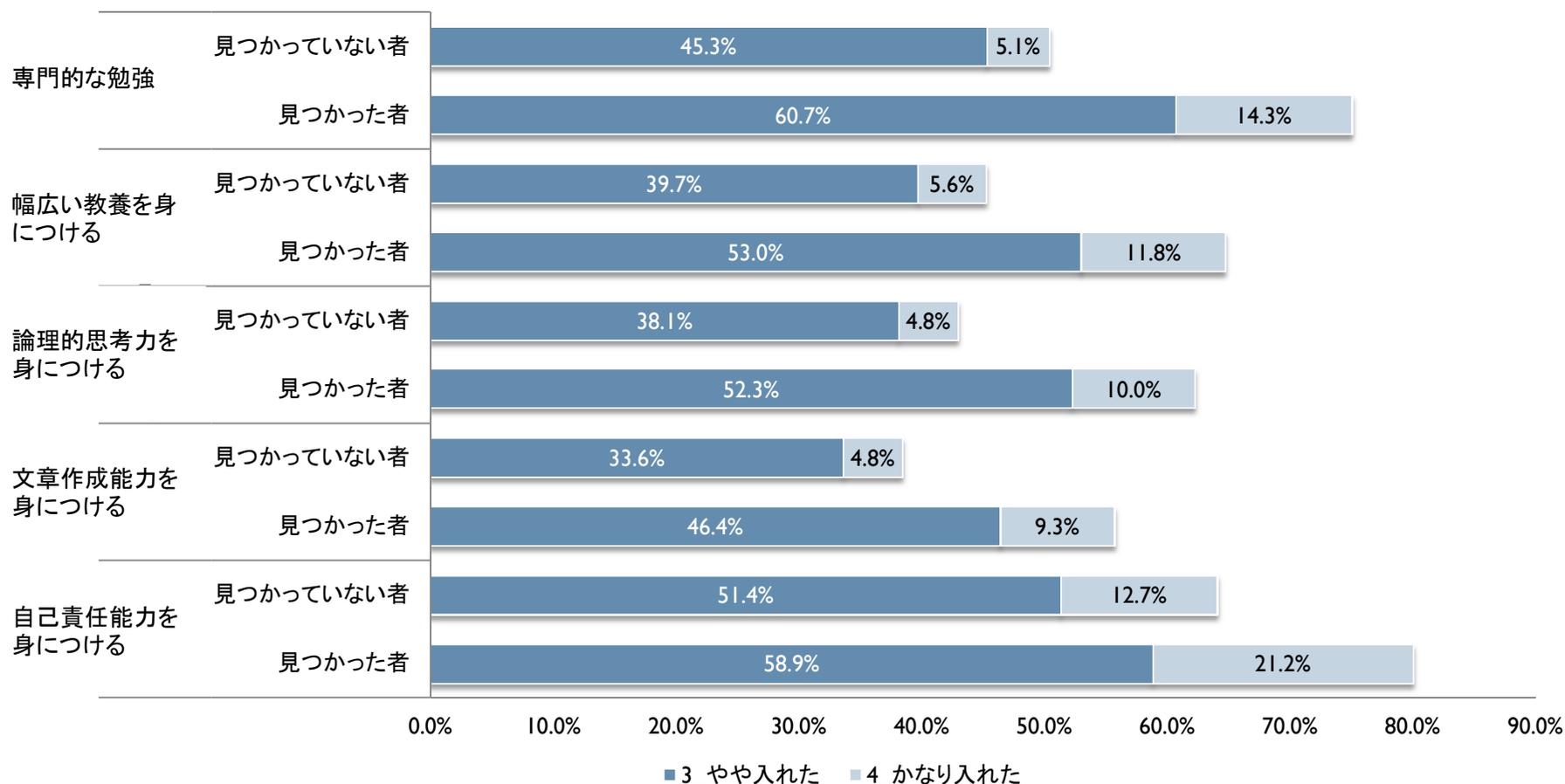
データの内訳： 大学生基礎力調査 I（2012）、II（2013）のパネルデータ



①と②の学生に、どのような差があるかを分析する。

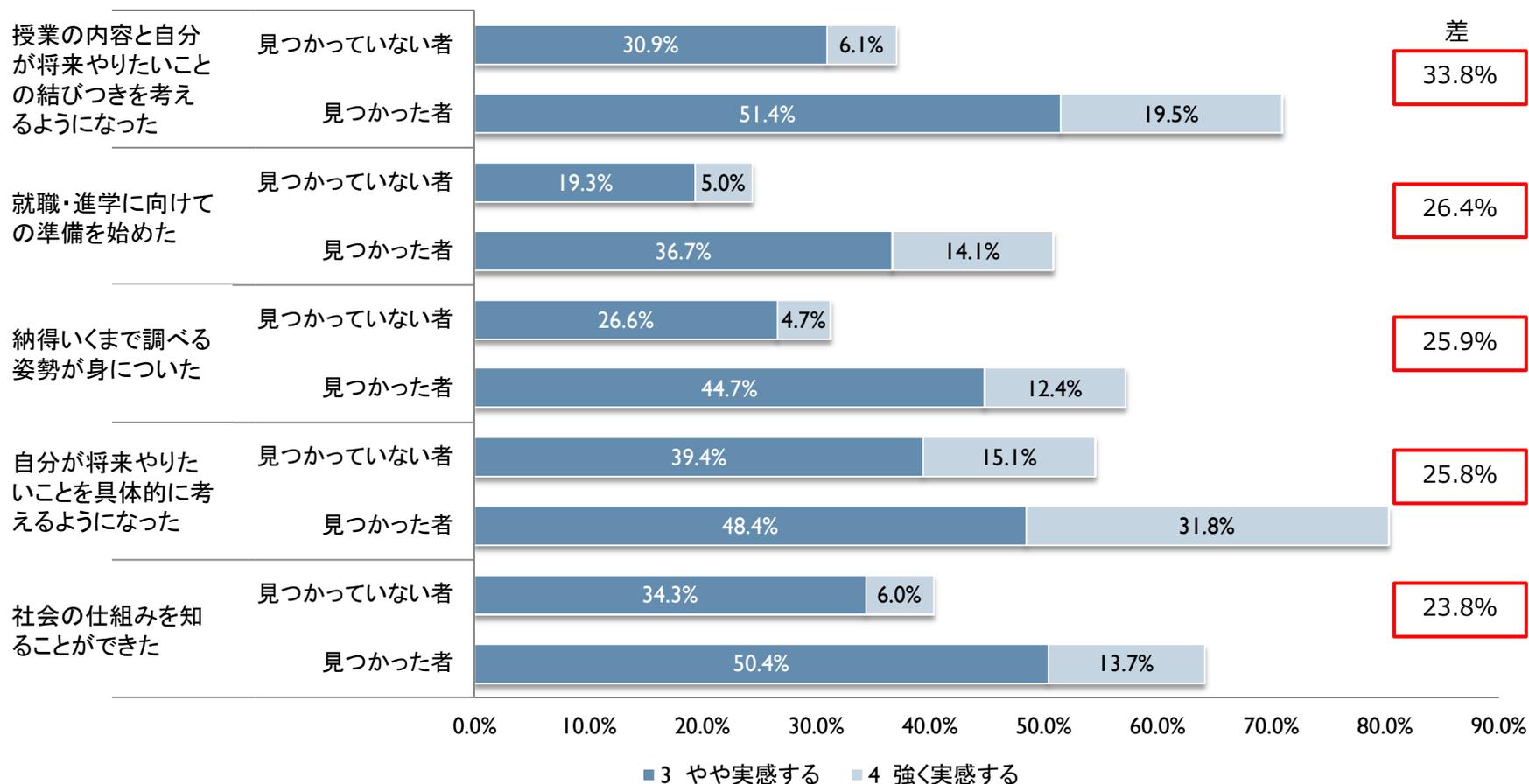
## 学生自身が1年次に力を入れた活動における差

大学で学びたい事がわかっているかどうかの差の大きい順に、15%以上差がついた項目のみを表示。（全17項目中5項目）1年次に、専門の基礎を学ぶ事に力を入れるだけでなく、幅広い教養、論理的思考力、大学での学び方に通じる文章作成、主体性のもとになる自己責任の自覚を身に付けた者が「大学で学ぶべきことは何か」を理解できている。



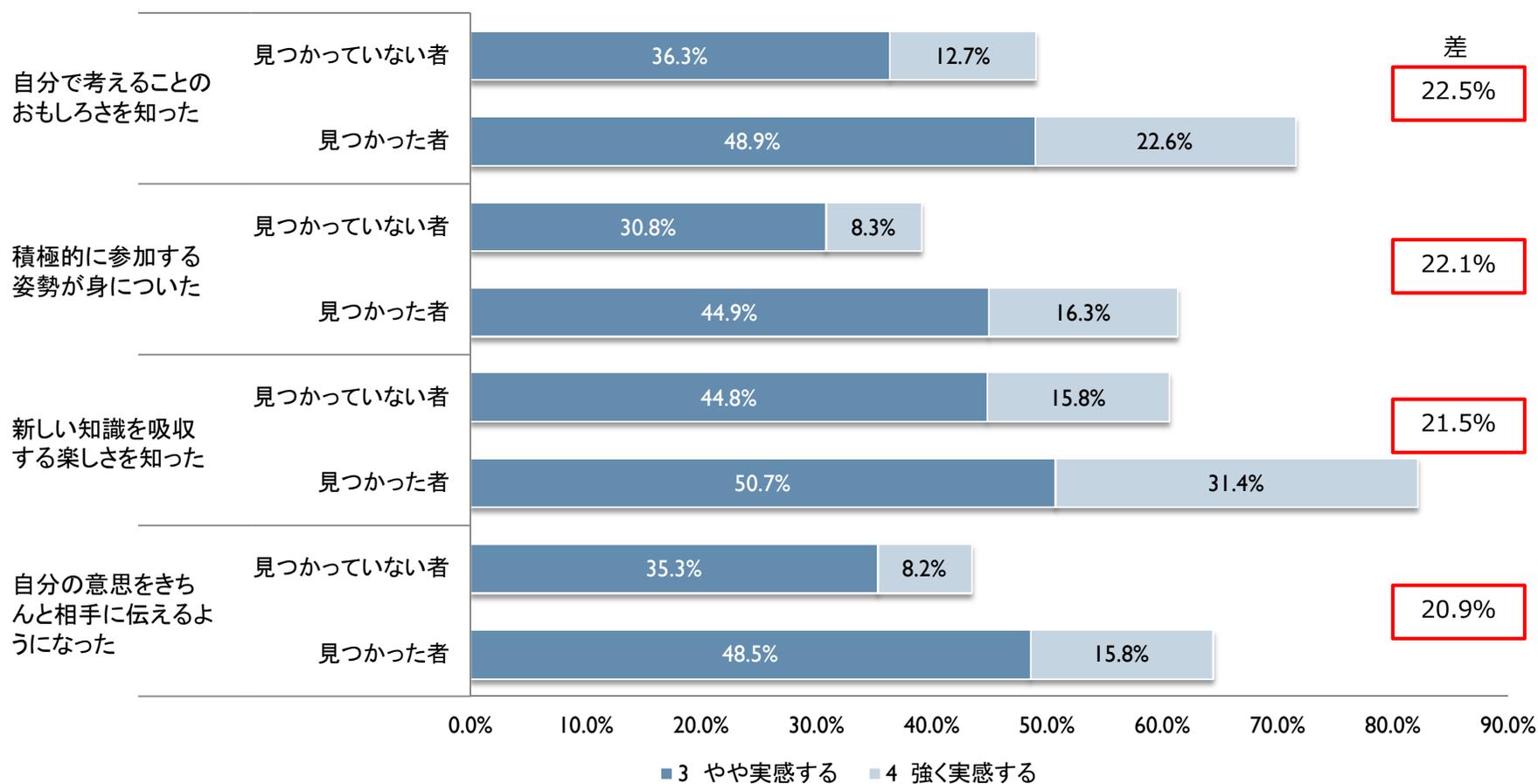
# 成長感－自己認識の変化①

差の大きい順に20%以上差がついているものを表示。（全15項目中9項目）  
 1年次に、社会の仕組みを知り、学んでいる内容と自分の将来の関連性や自分のやりたいことを考えるようになった学生が、学ぶべき事を自覚するようになることがわかる。



## 成長感－自己認識の変化②

単に、初年次から就職を意識させるのではなく、主体的な学びや知的好奇心の養成、積極的な態度、他者との関係性を構築できる対人関係能力の育成も重要である事がわかる。



# 成人学習の原理～大人が学びに向かう時

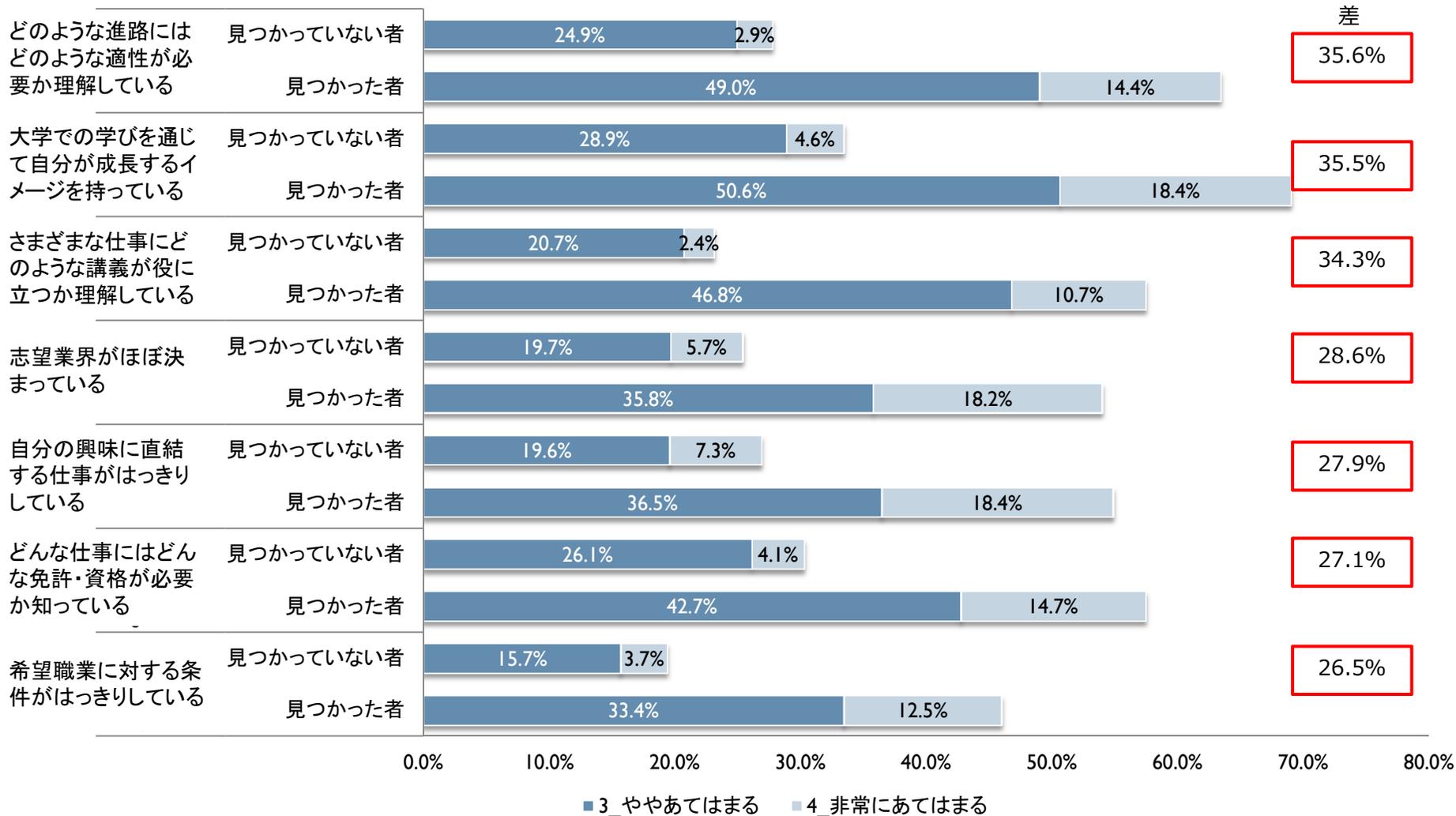
1. 成人は自分たちが学ぶことについてその計画と評価に直接関わる必要がある（何を、何の目的でどのように学ぶのかを納得する必要性）。
2. （失敗も含めた）経験が学習活動の基盤を提供してくれる（座学だけでなく経験の重要性）。
3. 成人は、自分たちの職業や暮らしに直接重要と思われるようなテーマについて学ぶことに最も興味を示す（学んでいる事と自分のニーズの関連性の理解）。
4. 成人の学習は、学習内容中心型ではなく、問題（解決）中心型である（学習への方向付け）。

## P - M A R G E の原則

Practical	大人の学習者は実利的なものを好む
Motivation	大人の学習者には特に動機を必要とする
Autonomous	大人の学習者は自律的である
Relevancy	大人の学習者は、学んでいることの関係性を理解したがる
Goal-oriented	大人の学習者は目的志向が強い
Experience	大人の学習者は、豊富な経験がある

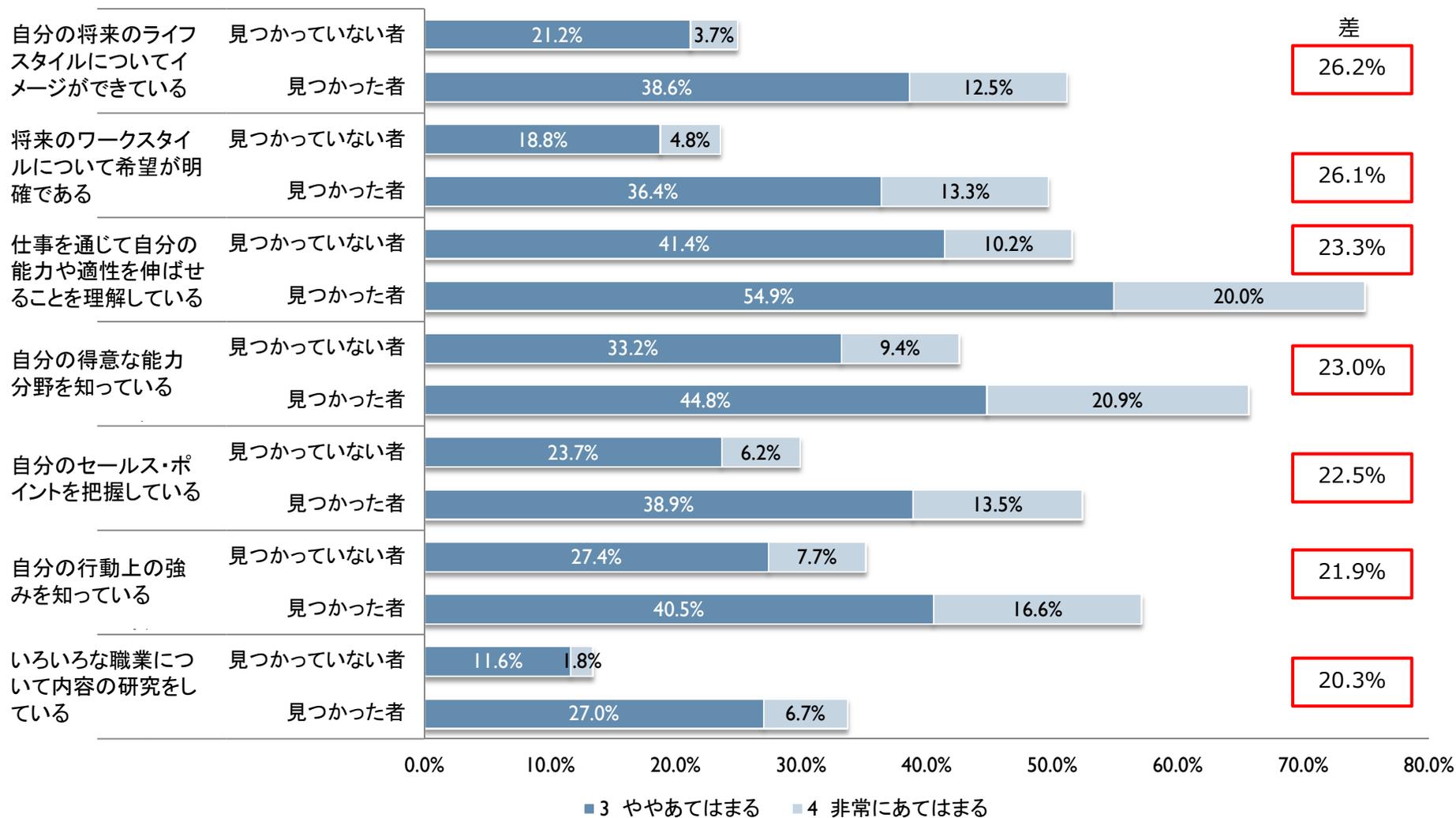
# 進路意識①

差の大きい順に20%以上差がついているものを表示。(全21項目中14項目)  
 進路意識の面では、学びと社会の関連性や自己成長感、同時に職業や業界等に関する具体的な知識やイメージがあることが要因として大きい。



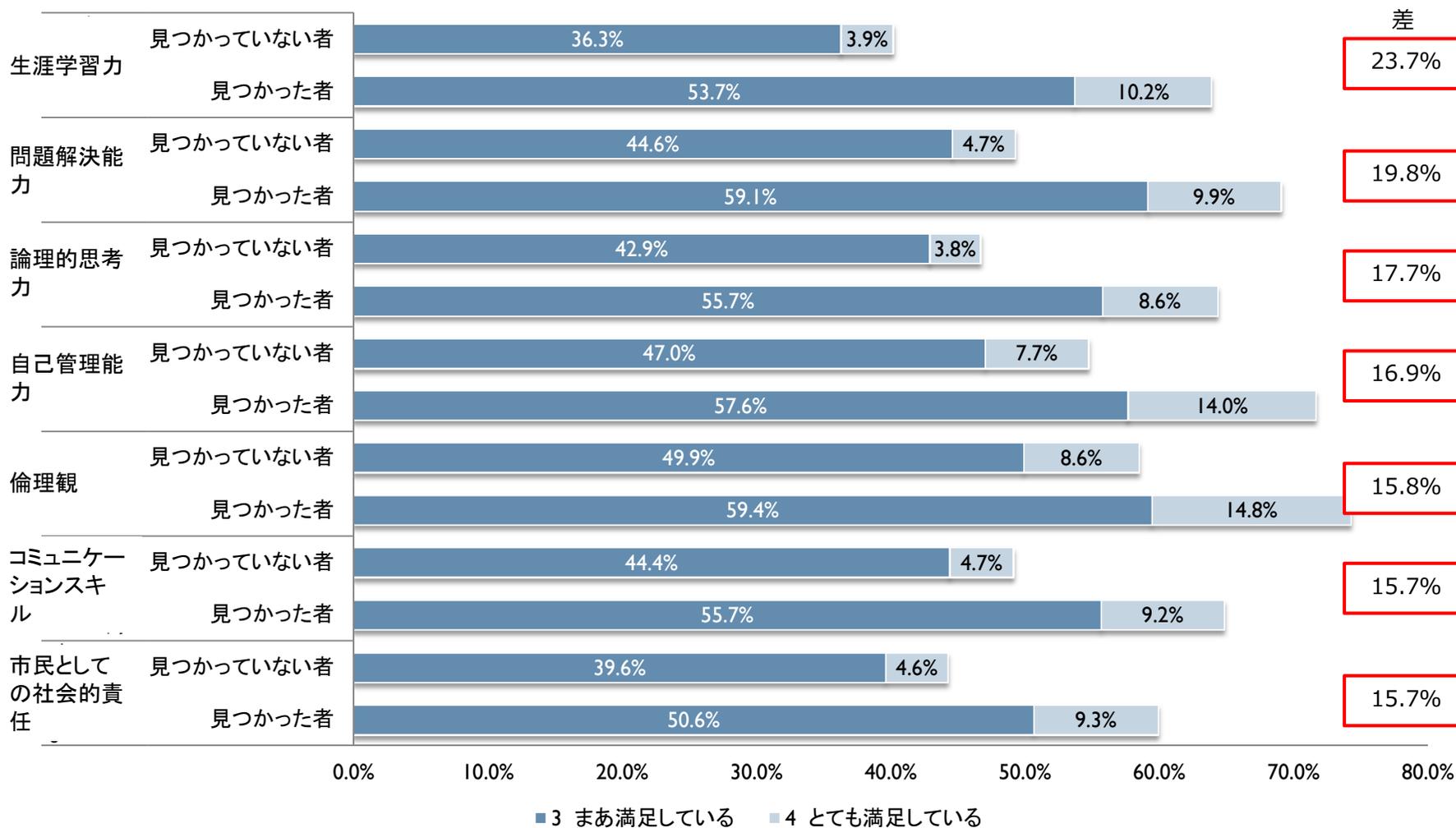
## 進路意識②

自己認識、自分の強みや適性、得意分野の理解と、将来のイメージを具体的に考えている者が、大学での学びの自覚も明確である。



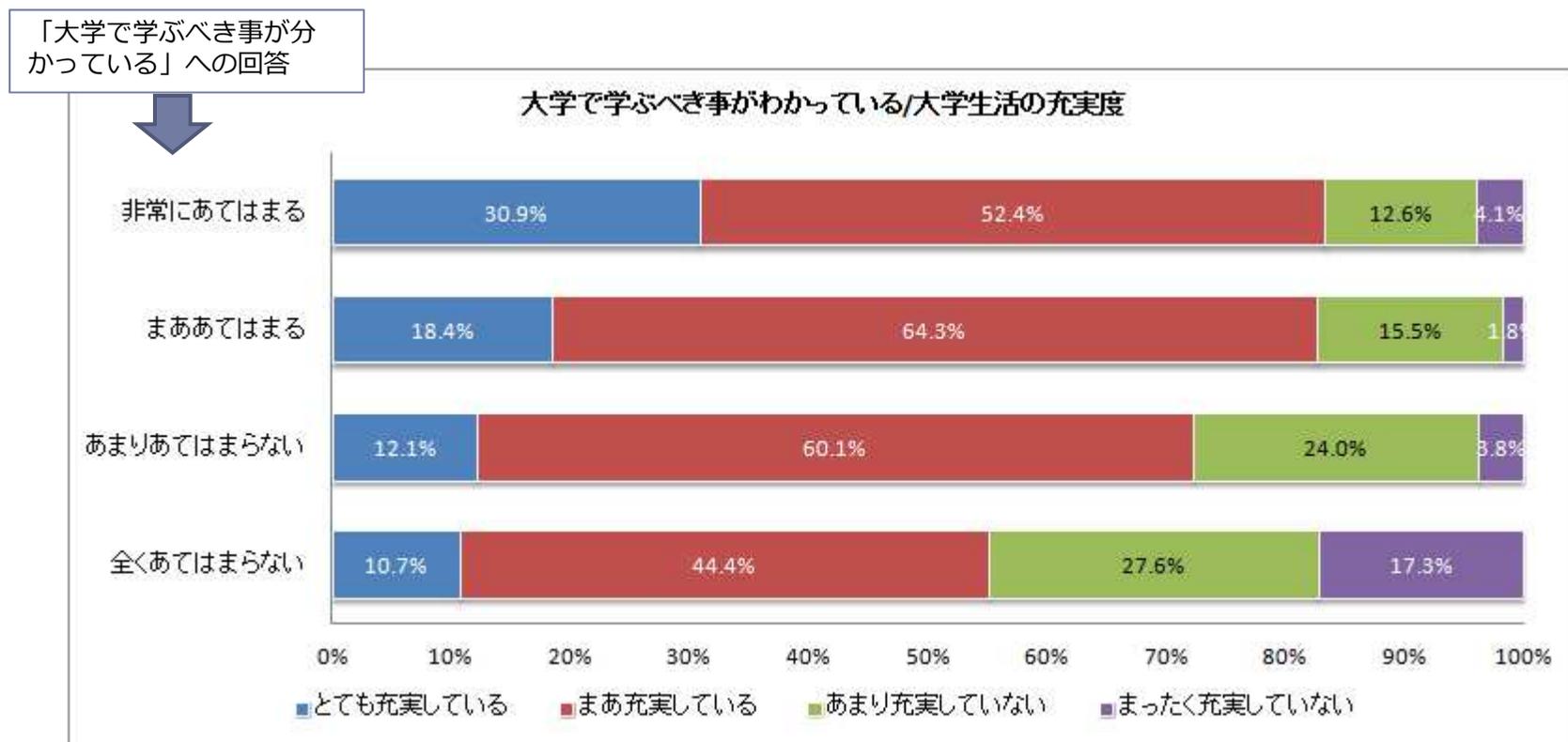
# 1年次に受けた「授業」の汎用的能力に対する役立ち度

差の大きい順に15%以上差がついているものを表示。(全10項目中7項目) 生涯学習力とは、「新たな課題に直面しても、何をどう学ばよいか分かっていう事」であり、問題解決の基盤となる力である。次に問題解決能力、論理的思考力などの育成を授業で経験した者が学ぶべき事を自覚するようになることがわかる。



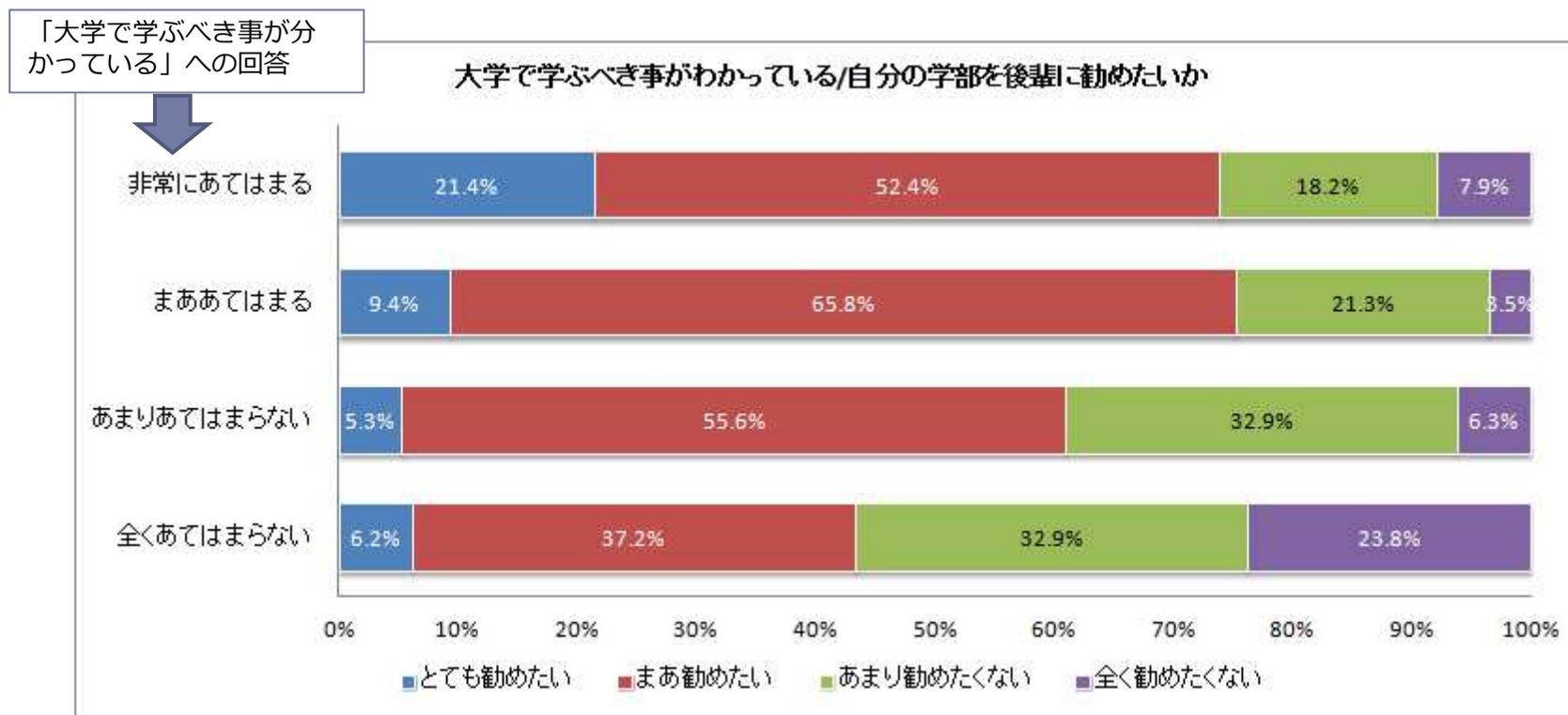
# 大学で学ぶべき事が分かっているかどうかで大学満足度に与える影響①

Q: あなたの大学生生活は充実していますか？



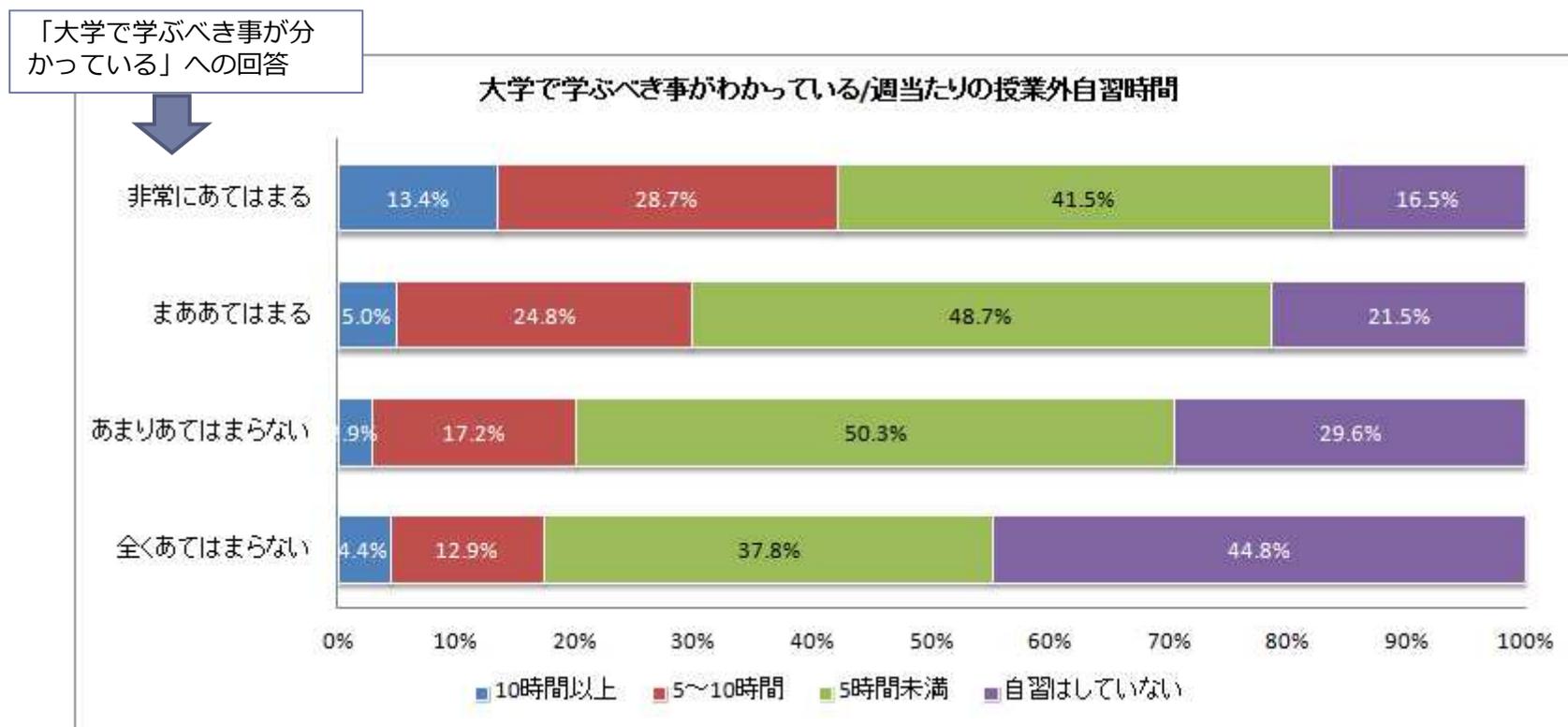
## 大学で学ぶべき事が分かっているかどうかは大学満足度に与える影響②

Q: あなたの学部・学科は後輩にも勧めたいですか？



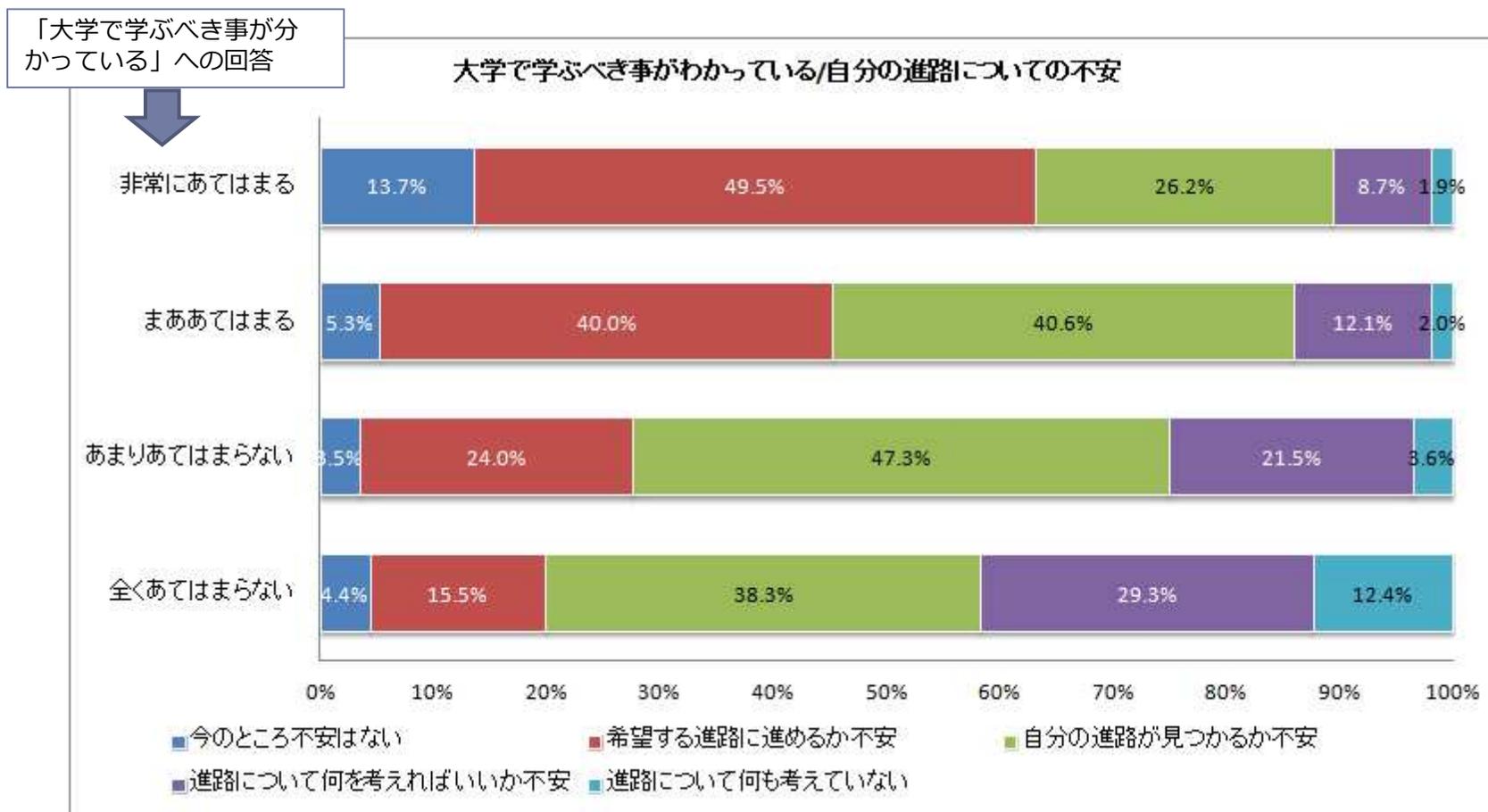
# 大学で学ぶべき事が分かっているかどうか学修時間に与える影響

Q: あなたの自習時間（授業時間以外で、授業の予復習や課題作成、自主的な勉強などは週当たりどのくらいですか。）

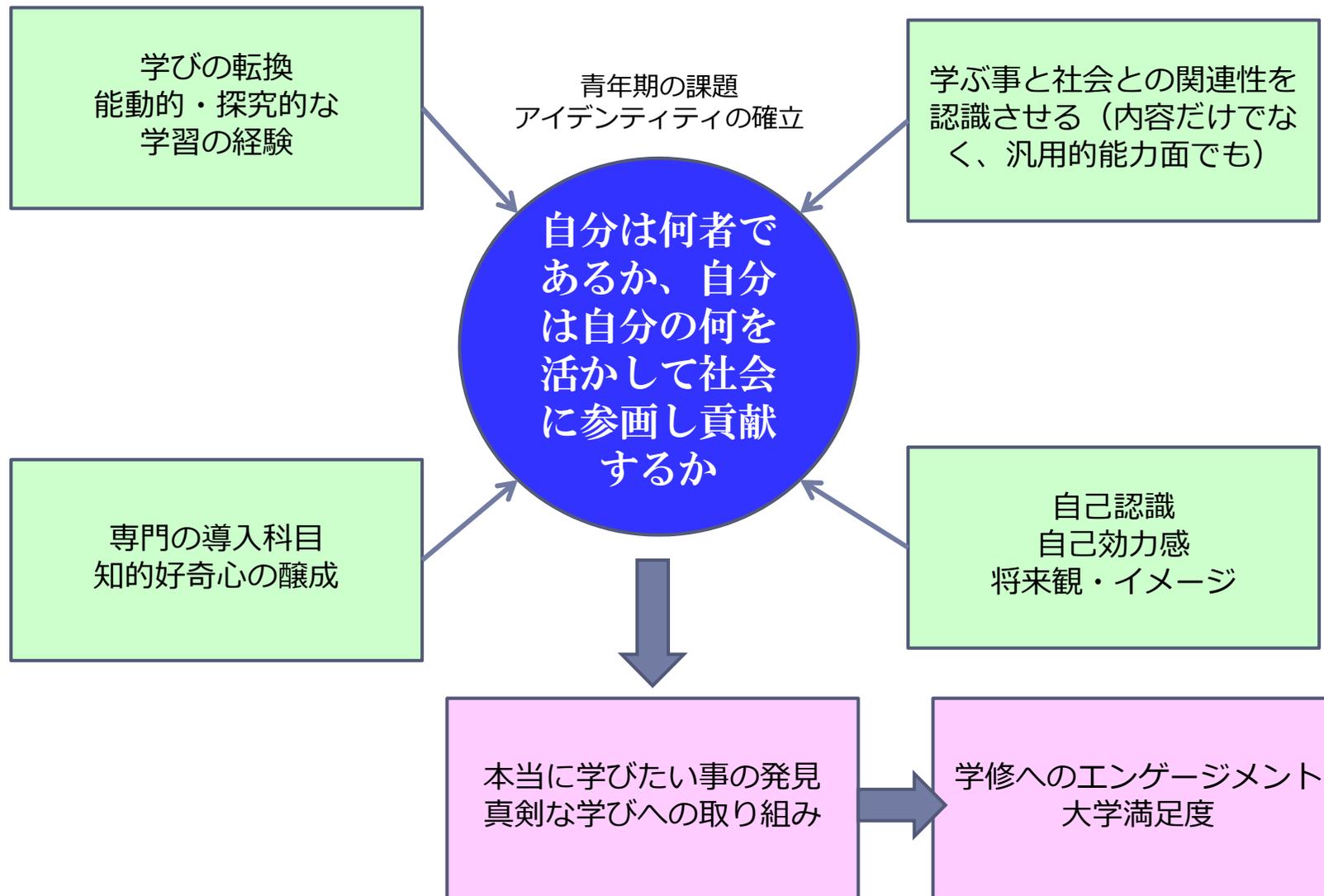


# 自分の進路に関する不安との関係

Q: あなたは、自分の進路について、不安はありますか？



# 真剣に学びたい事を見つけるのにどのような支援が必要か（まとめ）



## 各項目の独立性・肯定的比率の差の検定結果①

	独立性の検定		肯定的比率の差の検定		
	P値	判定	肯定的割合の差	P値	判定
専門的な勉強	6E-146	**	24.6%	0	**
幅広い教養を身につける	7.4E-87	**	19.5%	0	**
論理的思考力を身につける	1.2E-86	**	19.3%	0	**
文章作成能力を身につける	2.8E-72	**	17.3%	0	**
自己責任能力を身につける	1.5E-69	**	16.0%	0	**
業種・企業研究をする	2.8E-87	**	15.2%	0	**
コミュニケーション・スキルを身につける	3E-56	**	14.5%	0	**
教員との交流	1.4E-62	**	13.4%	0	**
資格取得のための勉強	1.2E-48	**	12.0%	0	**
語学に関する勉強	8E-38	**	11.7%	0	**
コンピューターに関する勉強	4.8E-26	**	8.9%	0	**
友達との交際	4.8E-25	**	6.3%	0	**
公務員などの試験対策準備	4.3E-25	**	6.1%	0	**
社会活動（ボランティア、NPOなど）	9.5E-26	**	6.0%	8.9E-16	**
海外留学をする	2.4E-11	**	3.5%	4.8E-09	**
クラブ・サークル活動	0.00081	**	3.4%	0.00132	**
アルバイト	0.75645		0.2%	0.83613	

## 各項目の独立性・肯定的比率の差の検定結果②

	独立性の検定		肯定的比率の差の検定		
	P値	判定	肯定的割合の差	P値	判定
授業の内容と自分が将来やりたいことの結びつきを考えるようになった	4E-255**		33.8%	0**	
就職・進学に向けての準備を始めた	6E-173**		26.4%	0**	
納得いくまで調べる姿勢が身についた	6E-149**		25.9%	0**	
自分が将来やりたいことを具体的に考えるようになった	2E-181**		25.8%	0**	
社会の仕組みを知ることができた	1E-127**		23.8%	0**	
自分で考えることのおもしろさを知った	5E-111**		22.5%	0**	
積極的に参加する姿勢が身についた	7E-109**		22.1%	0**	
新しい知識を吸収する楽しさを知った	1E-136**		21.5%	0**	
自分の意思をきちんと相手に伝えるようになった	9.6E-95**		20.9%	0**	
論理的思考力を身につける	1.2E-86**		19.3%	0**	
自分について深く考えるようになった	4.7E-60**		13.5%	0**	
人前に出ることが苦にならなくなった	3.5E-44**		13.2%	0**	
自分について考えることの大切さを知った	1.9E-60**		12.4%	0**	
きちんと挨拶するようになった	3.2E-47**		11.8%	0**	
社会のルールや厳しさを知った	9.4E-47**		10.7%	0**	
自分に対する甘さを知った	7.7E-08**		2.8%	3.4E-06**	

## 各項目の独立性・肯定的比率の差の検定結果③

	独立性の検定		肯定的比率の差の検定		
	P値	判定	肯定的割合の差	P値	判定
どのような進路にはどのような適性が必要か理解している	1E-291	**	35.6%	0	**
大学での学びを通じて自分が成長するイメージを持っている	6E-279	**	35.5%	0	**
さまざまな仕事について、それぞれどのような講義が役に立つか理解している	5E-265	**	34.3%	0	**
志望業界がほぼ決まっている	1E-212	**	28.6%	0	**
自分の興味に直結する仕事ははっきりしている	1E-190	**	27.9%	0	**
どんな仕事にはどんな免許・資格が必要か知っている	9E-176	**	27.1%	0	**
希望職業に対する条件がはっきりしている	7E-199	**	26.5%	0	**
自分の将来のライフスタイルについてイメージができています	9E-167	**	26.2%	0	**
将来のワークスタイルについて希望が明確である	9E-180	**	26.1%	0	**
仕事を通じて自分の能力や適性を伸ばせることがわかっている	2E-129	**	23.3%	0	**
自分の得意な能力分野を知っている	3E-131	**	23.0%	0	**
自分のセールス・ポイントを把握している	3E-116	**	22.5%	0	**
自分の行動上の強みを知っている	2E-119	**	21.9%	0	**
いろいろな職業について内容の研究をしている	2E-164	**	20.3%	0	**
仕事を通じて社会や人間のあり方を学習できることがわかっている	1E-113	**	19.4%	0	**
休日の設定、勤務開始時間の違いなどから、仕事内容の違いがイメージできる	1.2E-93	**	19.3%	0	**
職業を通じて社会に貢献できることを理解している	6E-110	**	19.2%	0	**
自分に向けた学習方法を知っている	3.1E-83	**	18.2%	0	**
働くことは幸福を追求することにつながることをわかっている	5.6E-89	**	17.3%	0	**
自分の性格の長所と短所をわかっている	1.3E-85	**	14.9%	0	**
仕事は自分や家族を豊かにできることを理解している	9E-73	**	11.8%	0	**

## 各項目の独立性・肯定的比率の差の検定結果④

	独立性の検定		肯定的比率の差の検定		
	P値	判定	肯定的割合の差	P値	判定
10_生涯学習力	7E-115	**	23.7%	0	**
5_問題解決力	1E-83	**	19.8%	0	**
4_論理的思考力	1.6E-66	**	17.7%	0	**
6_自己管理能力	5.8E-66	**	16.9%	0	**
8_倫理観	7.4E-61	**	15.8%	0	**
1_コミュニケーション・スキル	9.8E-54	**	15.7%	0	**
9_市民としての社会的責任	9.7E-54	**	15.7%	0	**
7_チームワーク・リーダーシップ	2.5E-51	**	14.7%	0	**
2_数量的スキル	6.6E-39	**	13.3%	0	**
3_情報リテラシー	1.1E-30	**	10.7%	0	**

## ベネッセ教育総合研究所

<http://benesse.jp/berd/index.shtml>

本資料・発表等に関するお問い合わせは、以下までメールでお願いいたします。  
[hyamashita@mail.benesse.co.jp](mailto:hyamashita@mail.benesse.co.jp)